

Enterprise Vault™ Discovery Accelerator レビューアガイド

12.3

Enterprise Vault™ Discovery Accelerator レビューア ガイド

最終更新日: 2018-03-12。

法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Enterprise Vault、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator は、Veritas Technologies LLC または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティソフトウェア（「サードパーティプログラム」）が含まれる場合があります。一部のサードパーティプログラムはオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスの下で利用できます。ソフトウェアに付属している使用許諾契約は、それらのオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスで規定されている権利または義務を変更するものではありません。この Veritas 製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバース・エンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

文書は「現状有姿のまま」提供され、市販性、特定目的との適合性または権利を侵害していないことを含むすべての明示または黙示の条件、表明および保証は、そのような免責が法的に無効であるとされた場合を除き、免責されます。VERITAS TECHNOLOGIES LLC は本書の供給、実行、または使用に関連した付随的、間接的な損害に対する責任を負わないものとします。本書に含まれる情報は、事前の通知なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR セクション 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により、ベリタスがオンプレミスとして提供したか、ホストサービスとして提供したかにかかわらず、制限された権利の対象となります。米国政府による本ソフトウェアの使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<https://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは、世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と、その時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。

サポートサービスとテクニカルサポートに連絡する方法について詳しくは、次の当社の Web サイトを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL で Veritas Account の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関して当社に問い合わせる場合は、次に示すご利用の地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

全世界 (日本以外)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

テクニカルサポートに連絡する前に、Veritas Quick Assist (VQA) ツールを実行して製品のマニュアルに記載されているシステムの必要条件を満たしていることを確認してください。VQA は Veritas サポート Web サイトの次の記事からダウンロードできます。

https://www.veritas.com/support/en_US/vqa

マニュアル

最新版のマニュアルを確認してください。各マニュアルの 2 ページ目に最終更新日が表示されています。最新のマニュアルは Veritas の Web サイトで入手できます。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100040095

マニュアルのフィードバック

お客様のフィードバックは当社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの間違い、脱字などのご報告をお願いします。その際、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。フィードバックは次のアドレスに送信してください。

evdocs@veritas.com

次の Veritas コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<https://www.veritas.com/community>

目次

第 1 章	Discovery Accelerator の概要	7
	Discovery Accelerator の主な機能	7
	Discovery Accelerator クライアントについて	8
	Discovery Accelerator クライアントを開く	8
	Discovery Accelerator クライアントの使い方	9
第 2 章	アイテムの検索	12
	Discovery Accelerator 検索の作成と実行	12
	特定の種類の Skype for Business コンテンツの検索の制限事項	15
	検索基準オプションについて	15
	効果的な検索の実行に関するガイドライン	24
第 3 章	手動によるアイテムのレビュー	26
	Discovery Accelerator を使ったレビューについて	27
	特定の種類の Skype for Business コンテンツのレビューの制限事項	27
	レビューペインについて	27
	レビューペインのアイテムのフィルタ処理	32
	レビューセット内での検索	36
	クイック検索の実行	37
	詳細検索の実行	38
	同じ対話のすべてのアイテムの検索	56
	アイテムへのレビューマークとタグの割り当て	57
	コメントのアイテムへの追加	58
	アイテムの履歴の表示	59
	アイテムの印刷可能バージョンの表示	59
	元のアイテムのダウンロード	60
	クリップボードへのアイテムリストのコピー	60
	Enterprise Vault アーカイブからのアイテムの削除	61
	削除した後にアイテムをレビューする場合の制限事項	62
	レビューペインの概観の変更	62
	レビューペインのユーザー設定の設定	63

第 4 章	リサーチフォルダを使った作業	66
	リサーチフォルダについて	66
	リサーチフォルダの作成	67
	リサーチフォルダのプロパティの編集	69
	アイテムのリサーチフォルダへのコピー	69
	リサーチフォルダのアイテムのレビュー	70
	リサーチフォルダからのアイテムのエクスポート	70
	リサーチフォルダへのアクセス権の付与	71
	リサーチフォルダからのアイテムの削除	72
	リサーチフォルダのケースへの変換	72
	フォルダの削除	73
第 5 章	アイテムのエクスポートと提出物生成	74
	アイテムのエクスポートと提出物生成について	74
	特定の種類のコンテンツのエクスポートの制限事項	74
	エクスポートと提出物生成の違い	75
	エクスポート実行または提出物生成実行	75
	同時エクスポート実行数または提出物生成実行数の制限について	79
	エクスポート ID または通し番号を Microsoft Outlook で表示	80
第 6 章	レポートの作成と表示	81
	Discovery Accelerator レポートについて	81
	Discovery Accelerator レポートの作成	81
	利用可能な Discovery Accelerator のレポート	82
	[アーカイブソース]レポート	83
	[ケースの履歴]レポート	84
	[エクスポート実行の重複]レポート	86
	[アイテムの詳細]レポート	87
	[リーガルホールド]レポート	87
	[提出物生成実行]レポート	89
	[提出物生成実行の重複]レポート	90
	[提出物生成]レポート	90
	[検索]レポート	91
	[セキュリティ]レポート	93
	既存のレポートの表示	93
	レポートの削除	94
	OData Web サービスを使った Discovery Accelerator データセットの表	
	示について	95
	利用可能な Discovery Accelerator データセット	95
	Discovery Accelerator データベースへのアクセス	96
	Microsoft Excel での OData サービスの使用	96

Microsoft SQL Server Reporting Services (SSRS)での OData	
サービスの使用	97
OData エラーのトラブルシューティング	98

付録 A

Discovery Accelerator 検索で使う Enterprise Vault のプロパティ	100
Enterprise Vault の検索のプロパティについて	100
システムプロパティ	101
Enterprise Vault のカスタムプロパティ	108
ファイルシステムアーカイブのアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロ パティ	109
SharePoint アイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ	109
Compliance Accelerator 処理されたアイテムの Enterprise Vault のカス タムプロパティ	111
ポリシー管理ソフトウェアで使うためのカスタムプロパティ	111
Enterprise Vault SMTP アーカイブのカスタムプロパティ	112

Discovery Accelerator の概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [Discovery Accelerator の主な機能](#)
- [Discovery Accelerator クライアントについて](#)
- [Discovery Accelerator クライアントを開く](#)
- [Discovery Accelerator クライアントの使い方](#)

Discovery Accelerator の主な機能

Discovery Accelerator は、Enterprise Vault のサービスやアーカイブと統合された、開示とレビューを行う電子システムです。Discovery Accelerator は、主任弁護士の調査や法廷で必要な提出物を迅速に費用対効果の高い方法で用意するために、電子メール、文書、その他の電子的なアイテムを検索し、取り込み、保存し、分析し、レビューし、マーク付けし、エクスポートまたは生成する権限をユーザーに与えることができます。

大量のアイテムのレビューを法律の専門家や外部の弁護団に依頼すると、非常にコストがかかります。Discovery Accelerator を使うと、1 つの開示処理またはケースにレビューアの階層を作成し、レビューアのレベルごとに特定のレビューマークを割り当てることができます。この方法を使えば、弁護士補助のスタッフや法律専門以外のスタッフが検索結果や収集結果の初期レビューを行うことができ、特別なアイテム、関連するアイテム、問題のあるアイテムのみを弁護士に任せることができます。その後、必要に応じて関連するアイテムに適切な通し番号を生成するか、または単に Discovery Accelerator からこれらのアイテムを各種の形式でエクスポートできます。

Discovery Accelerator クライアントについて

このクライアントは豊富な機能を持つ Windows アプリケーションです。Discovery Accelerator ユーザーはこのクライアントを使って、レビューするアイテムにマークとコメントを追加することができます。また、管理者は Discovery Accelerator クライアントを使ってアプリケーションの管理とカスタマイズを行うことができます。Discovery Accelerator ユーザーが割り当てられているロールによって、各ユーザーがアクセスできるクライアントの機能が決まります。

このガイドで説明するすべての処理は Discovery Accelerator クライアントで実行してください。

Discovery Accelerator クライアントを開く

次の点に注意してください。

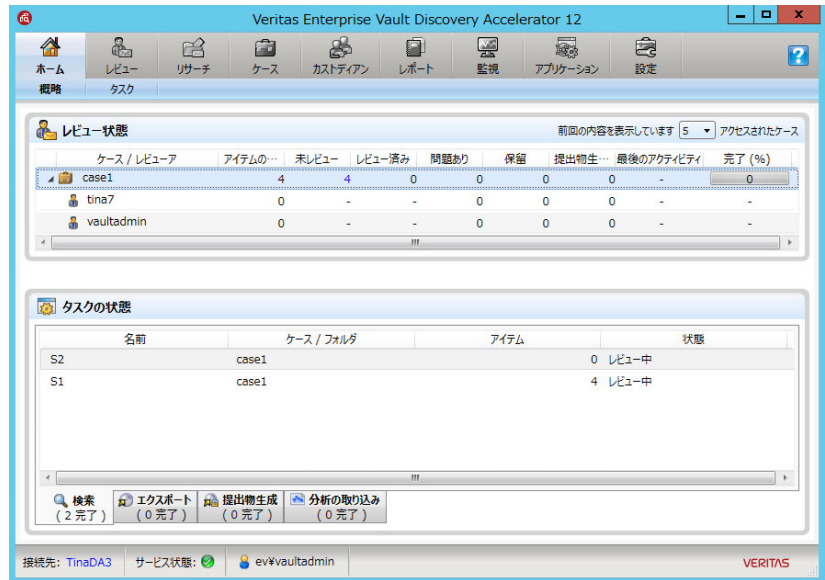
- Discovery Accelerator クライアントを頻繁に使用していると、Windows デスクトップに起動ショートカットを作成することが考えられます。
- Windows 8/8.1/10 コンピュータ上で Discovery Accelerator クライアントを実行する場合、最適なパフォーマンスのために Windows 7 または Windows XP の互換性モードで実行することをお勧めします。これをする方法のガイドラインについては、Windows のマニュアルを参照してください。

Discovery Accelerator クライアントを開くには

- 1 Discovery Accelerator クライアントのショートカットをクリックします。
しばらくして、[接続する Discovery Accelerator インスタンスの選択] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [サーバー]フィールドで、Discovery Accelerator サーバーのソフトウェアが実行されているコンピュータの名前または IP アドレスを入力します。
IP アドレスは、IPv4 と IPv6 のいずれの形式でも入力できます。
- 3 [インスタンス]フィールドで、アクセスする Discovery Accelerator インスタンス(カスタマーデータベース)を選択します。利用可能なインスタンスが一覧表示されるフィールドの右側にある下矢印をクリックします。
各インスタンスには、レビューするケースセットの詳細が格納されます。また、関連付けされたユーザーロール、検索結果、リサーチフォルダなども格納されます。したがって、選択するインスタンスが複数ある場合もあります。

- 4 [接続する Discovery Accelerator インスタンスの選択] ダイアログボックスを最初に表示せず、常に同じインスタンスに接続する場合は、[アプリケーションを開くたびに確認する]をクリアします。
- 5 [接続]をクリックします。

しばらくして、Discovery Accelerator クライアントのホームページが表示されます。



Discovery Accelerator クライアントをクローズする方法


- ◆ ウィンドウの右上にある[クローズ]ボタンをクリックします。

Discovery Accelerator クライアントの使い方

Discovery Accelerator クライアントでは、割り当てられたロールによってユーザーがアクセスできる機能が決まります。表 1-1 は、最も権限が強いロールのユーザーがアクセスできる機能を示しています。Discovery Accelerator 管理者は、ユーザーへの複数の異なるロールの割り当てと、そのロールに関連付けられた権限の変更を行うことができます。

表 1-1 Discovery Accelerator クライアントの主なタブ

アイコン	タブ	説明
	ホーム	このタブは Discovery Accelerator で実行するアクティビティの状態の主な項目を表示します。また、 Discovery Accelerator で頻繁に実行される可能性のあるアクティビティにすばやいアクセスを提供します。
	レビュー	このタブでは、レビューセットのアイテムを確認し、マークを割り当ててコメントを付けることができます。
	リサーチ	このタブでは、他の Discovery Accelerator レビューアに追加の作業をさせることなく、対象となるアイテムのみを作業できるリサーチフォルダを設定できます。
	ケース	このタブでは、ケースをオープンし、管理することができます。また、ケースの分析を有効にし、ケース内に収集したアイテムのメタデータと内容をさらに分析することもできます。
	カストディアン	<p>このタブでは、対象となる電子メールを設定することができます。この電子メールは Discovery Accelerator の検索基準に含めることが可能です。対象は、従業員のすべての電子メールアドレスを指定する簡単な方法で、検索の設定時にアドレスをすべて入力する必要がなくなります。</p> <p>このタブにはカストディアンマネージャ Web サイトへのリンクも表示されます。この Web サイトでは、Discovery Accelerator で検索するカストディアンとカストディアングループの詳細を指定できます。</p>
	レポート	このタブでは、レビューアの進捗状況、ロール、担当など、 Discovery Accelerator のさまざまな面に関するレポートを生成できます。
	監視	このタブでは、すべての Discovery Accelerator の検索の状態を監視し、必要に応じて検索を一時停止または再開することができます。

アイコン	タブ	説明
	アプリケーション	<p>このタブから、よく使われるさまざまな管理機能にアクセスできます。このタブをクリックしたときに利用可能なオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [ロール]。ユーザーに割り当て可能なロールの設定と修正を行い、Discovery Accelerator の機能へのユーザーによるアクセスを管理します。 ■ [ロールの割り当て]。ユーザーに Discovery Accelerator ロールを割り当てます。 ■ [マーク]。レビューアが各アイテムに対して付けることができるマークを設定したり編集したりします。このマークは、ケースに関連しているかどうかを示します。 ■ [タグ]。レビューアがレビューセットのアイテムに割り当てることができるタグと呼ばれるマークの補助セットを定義します。 ■ [アーカイブ]。Discovery Accelerator でアイテムを検索する Enterprise Vault アーカイブの一覧をカスタマイズします。 <p>また、選択したボルトストアをケース管理者に対して非表示にするように選択できます。これにより、ケース管理者はそのボルトストア内でアーカイブの検索を実行できません。</p>
	設定	<p>このタブから、使用頻度が少ないさまざまな設定機能にアクセスできます。このタブをクリックしたときに利用可能なオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [検索スケジュール]。設定時刻に繰り返し Discovery Accelerator の検索が実行されるスケジュールを設定します。 ■ [検索属性]。検索基準に含めることが可能なカスタム属性の詳細を指定します。 ■ [インポート設定]。XML ファイルから Discovery Accelerator に設定データをインポートします。 ■ [アカウント情報]。新しいユーザーを Discovery Accelerator システムに追加するときに選択できる複数の Windows ドメインの詳細を指定します。 ■ [設定値]。Discovery Accelerator の外観とパフォーマンスをカスタマイズする何百もの設定オプションを設定します。

アイテムの検索

この章では以下の項目について説明しています。

- [Discovery Accelerator 検索の作成と実行](#)
- [検索基準オプションについて](#)
- [効果的な検索の実行に関するガイドライン](#)

Discovery Accelerator 検索の作成と実行

ケースまたはフォルダで検索を作成して実行するには、ケースまたはフォルダの検索権限が必要です。検索プレビュー権限がある場合は、検索結果を受け入れる前に検索結果をプレビューできます。

Discovery Accelerator 検索を作成して実行する方法

- 1 次のいずれかの操作を行います。
 - ケースで実行する検索を作成するには、**Discovery Accelerator** クライアントの [ケース] タブをクリックし、次に左ペインで目的のケースをクリックします。
 - リサーチフォルダで実行する検索を作成するには、**Discovery Accelerator** クライアントの [リサーチ] タブをクリックし、次に左ペインで目的のフォルダをクリックします。

Discovery Accelerator によって大量のケースやフォルダが一覧表示される場合は、ペインの上部のフィールドを使って一覧をフィルタ処理できます。

- 2 [検索] タブをクリックします。

3 [新規検索]をクリックします。

検索のプロパティペインが表示されます。

検索

コンテキスト: case1

名前: 検索の名前を入力してください

検索に基づく: <テンプレートなし>

検索の種類: 即時

☐ 検索結果を自動的に受け入れる

☐ レビュー中の既存のアイテムを含める

日付範囲

日付範囲: 特定の日付範囲

開始日:

終了日:

☒ カストディアンとカストディアングループの履歴情報を使う

検索語

1 行に複数の単語を含めると、OR 検索が実行されます ("search phrase" のように二重引用符で囲んでいない場合)。

宛先または差出人 いずれか

保存 キャンセル

4 リサーチフォルダで実行する検索を作成していて、左ペインで[すべてのリサーチ]をクリックした場合、Discovery Accelerator は検索に関連付けるケースを選択するように要求します。選択し、[検索]をクリックします。

5 目的の検索基準を入力します。

p.15 の「[検索基準オプションについて](#)」を参照してください。

- 6 [保存]をクリックしてすぐに検索を開始するか、またはスケジュール設定済みの検索をキューに登録して決められた時刻に自動的に開始します。

検索結果が見つかるたびに Discovery Accelerator によってプレビューの一覧が表示されます。プレビュー表示ではアイテムをすぐに読み取ることができます。予想した結果が得られない検索は、必要に応じて停止することができます。この場合は、検索基準を絞り込んで再検索を実行できます。

[検索の詳細]ペインは次の情報を提供します。

アーカイブ	Discovery Accelerator によって検索されたアーカイブの名前を示します。
ボリューム	アーカイブを保持するボリュームの ID を表示します。
ボルトストア	アーカイブを含んでいるボルトストアの種類を示します。
状態	各アーカイブの検索の現在の状態を示します。
期間	各アーカイブを検索するために Discovery Accelerator がかけた時間を示します。
ヒット	検索基準に一致する、各アーカイブのアイテム数を示します。
情報	起きたエラーの詳細を提供します。

[表示]一覧のオプションを選択すると、アーカイブ一覧をフィルタ処理できます。たとえば、ヒット数が上位 2000 のアーカイブ、または状態が[エラー]のすべてのアーカイブを表示するようにアーカイブをフィルタ処理することができます。検索の詳細をカンマ区切り値 (CSV) ファイルとしてダウンロードするには、[すべてのアーカイブの検索の詳細をダウンロードする]をクリックします。

- 7 検索が完了したときに、結果の受け入れまたは拒否を選択できます。次の点に注意してください。
- Discovery Accelerator では、検索結果が受け入れられるまでレビューセットにキャプチャしたアイテムは追加されません。[検索結果を自動的に受け入れる]を選択しなかった場合は、結果を手動で受け入れるか、または拒否する必要があります。
 - 検索結果にデフォルトのマークとレビューアを割り当てるオプションは新しく検出されたアイテムにのみ適用されます。以前にキャプチャし、レビューセットに追加したアイテムが検索結果にある場合、これらのアイテムは割り当てられたマークとレビューアを保持します。
既存のマークを保持するオプションは、レビューアが別のケースですでにマークを割り当てたアイテムに対してのみ適用されます。
 - 検索結果を拒否すると、Discovery Accelerator によってその検索とデータベースからの結果が削除されます。ただし、実際のアイテムはアーカイブに残ります。

- 受け入れた検索は取り消すことができないため、検索結果は有効な結果であることが重要です。

特定の種類の Skype for Business コンテンツの検索の制限事項

Enterprise Vault 12.2 以降には、Skype for Business インスタントメッセージと会議の通信をアーカイブする機能があります。Enterprise Vault はこの通信を個別の電子メール (.eml) ファイルとしてアーカイブします。これは、Discovery Accelerator で Instant Messaging メッセージタイプになります。

Skype for Business の通信には、ユーザーが会議中に共有するホワイトボードと投票を含めることができます。この会議の 2 つの機能のコンテンツは、Enterprise Vault がインデックスを作成できない Microsoft 社独自の XML フォーマットで保存されます。したがって、Enterprise Vault または Discovery Accelerator でこの機能を使ってこれらのアイテムのテキストコンテンツを検索できません。

検索基準オプションについて

Discovery Accelerator は検索基準オプションを次に示す複数のセクションにグループ化します。セクションを展開するか、または省略するには、右の矢印のアイコンをクリックします。

複数のオプションを含む検索を構築する場合、検索のプロパティペインで各オプションが他の検索オプションとどのように対話するかに注意してください。Discovery Accelerator は選択したすべてのオプションを、OR ブール演算子ではなく AND ブール演算子でリンクします。たとえば、条件に次のものが含まれている検索を構築するとします。

- [日付範囲]セクションの日付範囲
- [検索語]セクションの検索用語
- [添付ファイル]セクションのファイル拡張子

この検索結果には、すべての検索基準に一致するアイテムのみが含まれます。Discovery Accelerator では、検索基準の一部のオプションに一致しても、他のオプションには一致しないアイテムは無視されます。

[検索プロパティ]ペインには次のセクションがあります。

- 「[検索]セクション」
- 「[日付範囲]セクション」
- 「[検索語]セクション」
- 「[アーカイブ]セクション」
- 「[添付ファイル]セクション」
- 「[その他]セクション」

- 「[ポリシー]セクション」
- 「[カスタム属性]セクション」

[検索]セクション

この[検索]セクションでは、検索の名前と実行時刻を指定します。

コンテキスト	検索を実行するケースまたはリサーチフォルダを指定します。フォルダがケースにリンクされない場合、「マイリサーチ」が表示されます。
名前	検索の名前を指定します(「Daily Message Capture (London)」など)。
検索に基づく	新しい検索のための基準を設定する基礎となる既存の検索を選択することを許可します。
結果の保存先	表示されている場合は、結果を保存する場所を選択できます。結果を保存する新しいフォルダの詳細情報を指定する場合はドロップダウンリストで<コンテキスト>の新規フォルダを選択します。 このオプションは、ケースにリンクされないフォルダの検索を作成する(左ペインで「マイリサーチ」を選択している)場合にのみ利用可能です。
検索の種類	検索をすぐに実行するか、スケジュール設定済みの時刻に実行するかを指定します。[スケジュール設定済み]を選択すれば、検索が動作する期間を指定できます。またいくつかの既存のスケジュールの 1 つから選択できます。
検索結果を自動的に受け入れる	検索結果をレビューセットに自動的に追加するかどうかを指定します。このオプションは過去に実行済みの検索を定期的に行う場合に便利です。[検索結果を自動的に受け入れる]を選択した場合、結果を拒否したり、検索基準を変更したりすることはできません。検索で予想した検索結果が得られることを確認するまで、[検索結果を自動的に受け入れる]をクリアしておくことをお勧めします。 アーカイブからエラーが返された検索は、この設定にかかわらず、自動的に受け入れられません。
レビュー中の既存のアイテムを含める	検索結果に、以前にキャプチャし、レビューセットに追加したアイテムを含めることができるかどうかを指定します。即時検索またはスケジュール設定済みの検索の場合、他の検索でレビュー中の可能性があるアイテムが結果に含まれるように、このボックスを選択することをお勧めします。

[日付範囲]セクション

[日付範囲]セクションでは、アイテムが送受信された日時を基準にアイテムを検索できます。

今日、昨日、最新 7 日間、最新 14 日間、最新 28 日間 選択した期間に送受信されたアイテムのみを検索します。日付範囲は検索が行われる時点(即時検索の場合は当日)を基準にした相対的な範囲です。

これらのオプションは、毎日、毎週、2 週間ごと、4 週間ごとに 1 回実行するようにスケジュール設定された反復検索を作成する場合に便利です。たとえば、週に 1 回検索を実行する場合は、[最新 7 日間]を選択すると、検索範囲は前回検索を実行した後の日付に限定されます。

特定の日付範囲

他の日付範囲オプションで指定できる期間よりも長い期間またはより限定された期間に送受信されたアイテムを検索できます。日付を入力するには、[開始日]フィールドと[終了日]フィールドの右側にあるオプションをクリックし、次に目的の日付を選択します。他の日付範囲フィールドとは異なり、[特定の日付範囲]では範囲が固定されています。検索実行時を基準にした相対的な範囲ではありません。

検索でカストディアンとカストディアングループの現在の情報と履歴の情報を両方使うために[カストディアンとカストディアングループの履歴情報を使う]を選択します。このオプションをクリアすると、**Discovery Accelerator** は現在のカストディアン、グループ、電子メールアドレスのセットのみを使います。名前や電子メールアドレスが変わったり、何らかの理由で非アクティブ化されたユーザーやグループは、検索から除外されます。

検索の最終実行以降

スケジュール設定済みの検索でのみ、前回の検索実行より後に送受信された新規アイテムを検索できます。このオプションは[今日]や[昨日]などのオプションに類似しています。ただし、それは検索を最初に行う開始日を明示的に設定できます。

デフォルトでは、このオプションを選択すると、前回の検索が実行された日付(初回の検索の場合は開始日)から現在の日付の 1 日前(昨日)までの範囲が検索対象となります。

[検索語]セクション

[検索語]セクションでは、**Discovery Accelerator** がアイテムで検索する単語またはフレーズを指定します。検索する各語句を追加するには、[検索語の追加]をクリックします。次の点に注意してください。

- **Discovery Accelerator** の検索は、大文字と小文字を区別しません。
- 正規表現は許可されません。

- フレーズを検索するには、単語を引用符で囲みます。
たとえば、次のように検索語を定義して、件名に「organizational changes」というフレーズを含むすべてのアイテムを検索できます。

SUBJ: "organizational changes"

Discovery Accelerator では、メッセージの添付ファイルのファイル名を、添付ファイルの件名と見なします。したがって、前の検索語では、「organizational chages」という句が件名にあるアイテムと、ファイル名にこの句のある添付ファイルの両方を検索します。

- 同じ行に複数の単語を入力した場合は、Discovery Accelerator によって、行のいずれかの単語またはフレーズを含むすべてのアイテムが検出されます。
検索語のすべての単語はスペースで区切る必要があることに注意してください。次の検索語では、「changes」と「license」の間に空白文字がないため、予想どおりの結果が返されません。そのため Discovery Accelerator は、「organizational」、「changeslicense」、「agreements」のうち 1 つ以上を含むアイテムを検索します。

SUBJ: "organizational changes""license agreements"

同様に、検索語の license;agreements と license; agreements は異なります。これは、2 つ目の例ではセミコロンの後に空白文字が続くためです。空白文字が含まれる場合、Discovery Accelerator はいずれかの単語を含むアイテムを検索します。一方、空白文字が含まれない場合、Discovery Accelerator は検索語をフレーズとして処理します。

- それに別の行を追加するために検索のフィールドでリターンキーを押します。検索フィールドに複数行を入力した場合は、左のフィールドの[いずれか]または[すべて]を選択して、行を OR か AND 条件で接続するかどうかを指定します。
- [差出人]ボックスまたは[宛先]ボックスに対象電子メールまたはカストディアンの詳細情報を追加するには、ボックスの右側の[対象とカストディアン]ボタンをクリックします。



メモ: 詳細情報を Domino ディレクトリと同期する Domino ユーザーをカストディアンまたは対象として指定する場合、このユーザーが Domino ディレクトリで定義された SMTP アドレスを持っていることを確認する必要があります。そうしない場合、検索では、一致するアイテムの検索に失敗します。代わりに、表示名によってこのようなユーザーを検索できます。

- [カストディアンマネージャのオプション]領域のフィールドを使ってカストディアンかカストディアングループを検索する方法を指定します。電子メールアドレス、表示名、ま

たは電子メールアドレスと表示名の両方を検索するように選択できます。[電子メールアドレスと表示名を使う]を選択した場合、カストディアンまたはカストディアングループは、一致する電子メールアドレスまたは一致する表示名のいずれかが検索基準を満たす必要があります。両方の基準を満たす必要はありません。

Discovery Accelerator にカストディアングループの表示名と電子メールアドレスだけでなく、すべてのグループメンバーの電子メールアドレスも検索してほしい場合、[配布リストのメンバーのアドレスを含める]を選択します。

[カストディアンマネージャのオプション]領域の下で入力する条件は、検索の構築時に利用可能なカストディアン情報を使います。この情報は、検索を再び編集しないと更新されません。たとえば、検索を作成し、[配布リストのメンバーのアドレスを含める]オプションを選択する場合、その時点でのリストのメンバーが検索とともに保存されます。リストに所属するメンバーがその後変更されても、検索を編集して再び保存するまでその変更は適用されません。

- 単語またはフレーズの前にプラス記号 (+) を配置して、行のその他すべての単語またはフレーズとブール論理積条件でつなげます。この記号により、指定した単語またはフレーズを目的の基準に応じて扱うように **Discovery Accelerator** に指示します。たとえば、次の検索文字列は「(server AND test) OR (group AND test) OR (cluster AND test)」を意味します。

```
[Any Of] server group +test cluster
```

次の例では、検索文字列は「(server AND test AND group) OR (cluster AND test AND group)」を意味します。

```
[Any Of] server +group +test cluster
```

- 単語またはフレーズの前にマイナス記号 (-) を配置して、行のその他すべての単語またはフレーズとブール否定論理積条件でつなげます。この記号により、その他の検索基準に一致する結果と除外された用語を含む結果を結果セットから除外するように **Discovery Accelerator** に指示します。たとえば、次の検索文字列は「(server AND NOT test) OR (group AND NOT test) OR (cluster AND NOT test)」を意味します。

```
[Any Of] server group -test cluster
```

次の例では、検索文字列は「(server AND cluster AND (group AND NOT test))」を意味します。

```
[All Of] server  
cluster  
group -test
```

検索語は、除外済みの語句のみで構成することができません。このような単語またはフレーズを指定するときには、検索結果に表示する検索対象な語句も指定する必要があります。

- 検索では、アスタリスク(*)を使って 0 文字以上の文字を表すことができます。疑問符(?)をワイルドカードとして使用する場合は、任意の 1 文字を表します。

ワイルドカードでの検索は、検索基準に一致し、Enterprise ボルト 10.0 以降でアーカイブされたアイテムならば、常に検索されます。Enterprise Vault 9.0 以前でアーカイブしたアイテムも検索結果に含まれるようにするには、ワイルドカードの前にワイルドカードではない文字を 3 つ以上入力します。たとえば、次の検索文字列は「make」、「maker」、「making」、「wonder」、「wondering」などの用語にヒットします。

```
[Any Of] mak*  
Wonder*
```

[差出人]フィールドか[宛先]フィールドに指定する電子メールアドレスにワイルドカード文字を含めることができます。次の例は電子メールアドレスに「@acme.uk」か「@acme.hk」を含んでいるユーザーのアイテムを見つけます。

```
[Any Of] @acme.?.k
```

ただし、アットマーク(@)などの特殊文字の後にどのワイルドカード文字も使うことはできません。たとえば、検索文字列「@?cme.uk」では予想した検索結果が得られません。

- Discovery Accelerator は、プラス記号、マイナス記号、疑問符など、特別な意味がある場合を除いて、検索語の英数字以外の文字を無視します。
たとえば、US@100 という用語の検索は、US@100 だけではなく US 100 と US\$100 のインスタンスも検索します。したがって、検索語に英数字以外の文字を含めると、予想よりも多くの結果が戻される場合があります。

[アーカイブ]セクション

メモ: この機能は、ケースで「検索でのアーカイブの選択」権限を持つときのみ利用可能です。

この機能はスケジュール設定済みの検索の基準を定義する場合は利用可能ではありません。即時検索を設定するときのみ使うことができます。

[アーカイブ]セクションは、特定のアーカイブのみにケースレベルの検索またはフォルダレベルの検索の範囲を制限することを可能にします。デフォルトでは、Discovery Accelerator はケースに選択したボルトストアのすべてのアーカイブを検索します。ただし、これは Discovery Accelerator が何千ものアーカイブを不必要に検索する必要がある場合は望ましくなく、時間がかかる場合があります。

検索対象のアーカイブを選択する方法

- 1 [次のアーカイブを検索]をクリックします。
- 2 右側の[Archive Picker]オプションをクリックします。

3 [アーカイブを選択]ダイアログボックスでは、目的のアーカイブを選択します。

ケースレベルのアーカイブのリストから最大 5000 のアーカイブを選択できます。

4 [適用]をクリックします。

[添付ファイル]セクション

[添付ファイル]セクションでは、指定した数または種類の添付ファイルを含むアイテムを検索できます。

番号

対象となる添付ファイル数を指定します。デフォルトオプション[重要ではない]の場合、0を含む任意の数の添付ファイルを含むアイテムが検索対象となります。その他のオプションを選択する場合、対象となる添付ファイル数を指定する値を 1 つまたは 2 つ入力する必要があります。

ファイル拡張子

検索対象となる添付ファイルの種類を表す拡張子を指定します。各拡張子はスペースで区切って入力します。たとえば、HTML ファイルまたは Microsoft Excel ファイルが添付されているアイテムを検索する場合は、次のように入力します。

.htm .xls

この検索オプションでは、ファイル名のみによって添付ファイルが評価されます。ファイルの種類は確認されません。たとえば、.zip ファイルの拡張子を .zap に変更し、名前を変更したファイルを電子メールの添付ファイルとして送信するとします。Discovery Accelerator は .zip 拡張子の付いた添付ファイルを含むアイテムのみを検索し、名前の変更された添付ファイルを含む電子メールは検索しません。

添付ファイルの内容によっては、Enterprise Vault でインデックス付けしていないために検索できない場合もあります。特に、Fax や音声のようなファイル形式には、インデックス付けできる内容がありません。

Discovery Accelerator でファイル名拡張子を指定した検索を実行する方法について詳しくは、Veritas サポート Web サイトの以下の記事を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100008537>

[その他]セクション

[その他]セクションでは、特定のサイズまたは種類のアイテム、特定の保持カテゴリのアイテムを検索できます。

メッセージサイズ	メッセージストア (Exchange、Domino など) が報告するように、検索する各アイテムのサイズを KB 単位で指定します。アイテムのサイズには添付ファイルのサイズも含まれます。
メッセージの種類	選択した種類のアイテムを検索します。
インデックスなしのアイテムのみ 含める	バイナリファイルや暗号化されたメールアイテムなど、通常は検索結果に表示されないインデックス付けされていないアイテムを検索できます。 このオプションを選択する場合は、[内容]フィールドを空にしておく必要があります。
保持カテゴリ	Enterprise Vault が選択済みの保持カテゴリを割り当てたアイテムを検索します。

[ポリシー]セクション

[ポリシー]セクションでは、任意のポリシー管理ソフトウェアが分類に使ったタグに従ってアイテムを検索できます。

ポリシー

ある特定の分類のポリシーと一致するアイテムの有無を検索できます。複数の種類のポリシーがあります。

- [含める]。ポリシー管理ソフトウェアでレビューセットに含まれるように分類され、最も深刻な非行(ののしり、人種差別、インサイダー取引など)である可能性のあるアイテムです。通常、これらの機能を示すアイテムがレビューセットに含まれるようにすると便利です。
- [除外]。スパムアイテムとニュースレターは、ポリシー管理ソフトウェアがレビューセットから除外するように分類することがあるアイテムの典型的な例です。
- [分類]。ポリシー管理ソフトウェアは、スペイン語のテキストを含むなど特定の性質を表わすアイテムをカテゴリに分類する場合があります。この種類のポリシーは、アイテムをレビューセットに含めるか、またはレビューセットから除外するかの情報を提供しません。

これらのポリシーの種類は相互に排他的ではありません。ポリシー管理ソフトウェアは、同じアイテムに種類が異なる複数のポリシーを適用する場合があります。ただし、含まれるポリシーが他の種類のポリシーに常に優先します。

必須のポリシーの種類を選択し、検索するポリシーの名前を選択します。または、ポリシーの種類として[カスタム]を選択し、1 つ以上のポリシー名を入力します。次のように、複数のポリシー名をカンマで区切ります。

CustomPolicy1,CustomPolicy2

複数のポリシーの検索を選択すると、検索結果にはいずれかのポリシーに一致するアイテムが含まれます。

現在のケースでポリシーをフィルタ処理

リストから現在のケースで使用していないポリシーを省略できます。

[カスタム属性]セクション

[カスタム属性]セクションでは、指定した属性を持つアイテムを検索できます。Enterprise Vault がアイテムを処理するときに、情報が含まれる多数のアイテムの属性をポピュレートし、アーカイブ済みアイテムを含むこの情報を格納します。一部の他社製ソフトウェアはアイテムに追加の属性情報を加えることもあります。対象の属性の名前がわかる場合は、カスタム属性としてここにその詳細情報を入力できます。

次の点に注意してください。

- 複数の属性の詳細情報を入力する場合は、[属性を含める]ボックスのオプションを使って、検索結果を属性のいずれかまたはすべての属性に一致させるかを指定します。

- 文字列値を許容する属性の場合は、ボックスの右側の[対象とカスタディアン]ボタンをクリックして、電子メールの対象またはカスタディアンの詳細情報を追加できます。
[カスタディアンマネージャのオプション]を[電子メールアドレスと表示名を使う]に設定する場合、カスタム属性フィールドに入力するカスタディアンの詳細が **Discovery Accelerator** でどのように処理されるかを理解することが重要になります。
[演算子]ボックスでの選択に応じて、**Discovery Accelerator** は **AND** ブール演算子または **OR** ブール演算子のいずれかでカスタディアンの電子メールアドレスと表示名をつなげます。たとえば、[演算子]を[両方]に設定すると、カスタディアンの電子メールと表示名の両方に一致するアイテムが検索条件を満たします。これらの詳細情報の 1 つのみに一致するアイテムは検索条件を満たしません。電子メールアドレスと表示名を **OR** 演算子でつなげるには、[演算子]を[いずれか]に設定します。1 つ以上の詳細情報(両方でなくてもよい)に一致するアイテムが検索条件を満たします。
- 他社製ソフトウェアが **SMTP** アイテムの **X-header** に追加した属性情報を検索するには、検索する属性の名前に接頭辞 **EVXHDR** を追加します。次に例を示します。
EVXHDR.X-CompanyID
属性名と値は大文字と小文字を区別します。
- 属性値がフレーズであることを示す場合に引用符で属性値を囲まないでください。代わりに、これらの属性のオペレータとして[フレーズ]を選択します(選択肢がある場合)。また、次のように、すべてのスペースをピリオドに置換することによって属性値がフレーズであることを示すことができます。
sample.attribute.value
この方法によって、同じカスタム属性に複数のフレーズ値を指定できます。たとえば、次の属性値を考えてみます。
Enterprise.Vault.Service.Account system DA.Administrator
この値は、「Enterprise Vault Service Account」、「system」、「DA Administrator」と一致します。

p.100 の「[Enterprise Vault の検索のプロパティについて](#)」を参照してください。

効果的な検索の実行に関するガイドライン

検索の実行時に最適な結果を得るには、次のガイドラインに従ってください。

- 正確な検索を行います。たとえば、作成者または受信者の詳細を含めたり、日付範囲を指定したりします。
- ケースのプロパティで、検索可能なボルトストアの数を制限します。
- ワイルドカードはパフォーマンスに重大な影響を及ぼす可能性があるため、必要な場合にものみ使います。
- 検索語は使い過ぎないようにします。数千もの用語を使うと、検索が繰り返して実行される可能性があります。

- スケジュール設定済みの検索がシステムバックアップと同時に実行されないことを確認します。
- データベースの空きがなくなったり速度が低下したりするのを回避するために、検索は迅速に受け入れるか、拒否します。
- リサーチフォルダで新しい検索をテストし、その後、必要に応じてフォルダを削除します。

Discovery Accelerator での検索方法について詳しくは、ホワイトペーパー『Effective Searching』を参照してください。このホワイトペーパーを入手するには、Veritas サポート Web サイトの次のページを参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100038089>

手動によるアイテムのレビュー

この章では以下の項目について説明しています。

- [Discovery Accelerator](#) を使ったレビューについて
- レビューペインについて
- レビューペインのアイテムのフィルタ処理
- レビューセット内での検索
- 同じ対話のすべてのアイテムの検索
- アイテムへのレビューマークとタグの割り当て
- コメントのアイテムへの追加
- アイテムの履歴の表示
- アイテムの印刷可能バージョンの表示
- 元のアイテムのダウンロード
- クリップボードへのアイテムリストのコピー
- [Enterprise Vault](#) アーカイブからのアイテムの削除
- レビューペインの概観の変更
- レビューペインのユーザー設定の設定

Discovery Accelerator を使ったレビューについて

検索を実行して関連する可能性のあるアイテムを収集した後、選択された個人が検索結果をレビューできます。アイテムを確認した後で、レビューアが適切な状態マークをアイテムに割り当て、必要に応じてコメントを追加します。アイテムを複数回レビューしたり、他のレビューアがコメントを追加したり、割り当てられたマークを変更したりできます。

一部のアイテムに、選択可能なタグという追加マークを付ける場合があります。これらのタグは、レビューペインの下部にあり、通常は主に裁判官からの質問に応じて設定されます。

アイテムをレビューするには、レビュー権限が必要です。

レビューペインにアクセスする方法

- ◆ Discovery Accelerator クライアントの[レビュー]タブをクリックします。

特定の種類の Skype for Business コンテンツのレビューの制限事項

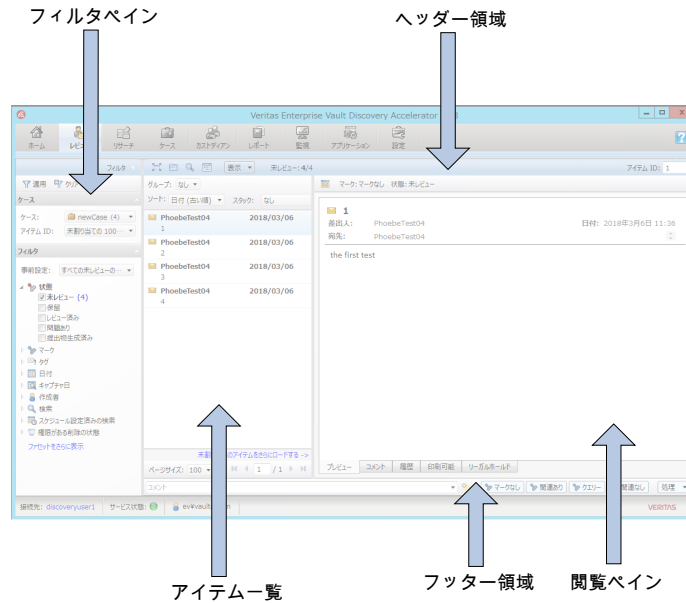
Enterprise Vault 12.2 以降には、Skype for Business インスタントメッセージと会議の通信をアーカイブする機能があります。Enterprise Vault はこの通信を個別の電子メール (.eml) ファイルとしてアーカイブします。これは、Discovery Accelerator で Instant Messaging メッセージタイプになります。

Skype for Business の通信には、ユーザーが会議中に共有するホワイトボードと投票を含めることができます。この会議の 2 つの機能のコンテンツは、Enterprise Vault がインデックスを作成できない Microsoft 社独自の XML フォーマットで保存されます。これは、ホワイトボードと投票が Discovery Accelerator の[レビュー]ペインに表示される方法に次のように影響します。

- アイテムのコンテンツが XML 添付ファイルとして格納されます。
- ホワイトボードの印刷可能バージョンのプレビューまたは表示は行えません。投票の質問は表示できますが、それらへの回答は表示できません。

レビューペインについて

レビューペインはレビューセットのアイテムを見直し、マーク付けすることを可能にします。ペインは次の領域に分かれています。



以下のセクションでは、レビューペインの各領域について説明します。詳しくは、ホワイトペーパー『[Effective Reviewing](#)』で確認することもできます。

以下のセクションでは、レビューペインの各領域について説明します。

- 「ヘッダー領域」
- 「フィルターペイン」
- 「アイテム一覧」
- 「閲覧ペイン」
- 「フッター領域」

ヘッダー領域

ヘッダー領域には、ビューをカスタマイズするオプションと別のアイテムを選択して表示するオプションが表示されます。



Discovery Accelerator のウィンドウの上部のボタンバーを隠すことによってレビューペインを最大化します。このボタンを再度クリックすると、ボタンバーが復元されます。



詳細な調査を行うためにリサーチフォルダにコピーしたアイテムを表示できます。

p.66 の「[リサーチフォルダについて](#)」を参照してください。



現在選択されているアイテムに基づく検索を実行できます。



レビューペインの環境設定を設定します。

p.63 の「[レビューペインのユーザー設定の設定](#)」を参照してください。

表示

閲覧ペインを隠したり位置を変更したり、ペインに表示するテキストのサイズを設定したりすることができます。

未レビュー

リストのうち、まだレビューしていないアイテム数を示します。

アイテム

ハイライトされたアイテムの **Discovery Accelerator ID** を表示します。レビュー対象のアイテムの **ID** を知っていたら、それをここに入力し、**Enter** キーを押してそのアイテムを表示します。

グループ

日付、作成者、件名、またはポリシー処理によってリストのアイテムをグループ化します。

左の下矢印ボタンまたは上矢印ボタンのクリックによってグループのアイテムを表示するか、または隠します。

ソート

アイテムをグループ化しないことを選択したリストでは日付、作成者、件名、またはポリシー処理によってアイテムをソートできます。

スタック

レビューセットの重複アイテムと類似アイテムを表示または非表示にできます。**Discovery Accelerator** は、内容がまったく同じであるとき、アイテムが重複であると見なします。**Discovery Accelerator** が類似と見なすアイテムは、メタデータのプロパティ（作成者の表示名、件名と添付ファイルの数など）が同じです。

重複アイテムを表示または非表示にするオプションは、分析に対して有効なケースの場合にのみ利用可能です。ただし、類似アイテムを表示または非表示にするオプションは、分析に対して有効かどうかに関係なく、すべてのケースで利用可能です。

[スタック] フィールドでオプションを選択する前にアイテムをソートすれば、[スタック] オプションを選択した後、アイテムは元のソート順で表示されないことがあります。たとえば、これは、最初にアイテムを[作成者]列によってソートし、次に[スタック] オプションの 1 つを選択する場合などです。

Discovery Accelerator での重複排除機能について詳しくはホワイトペーパー『[Accelerator Deduplication](#)』を参照してください。



現在のアイテムを原型でダウンロードし、適切なアプリケーションで開きます。またアイテムを右クリックして[元の表示]をクリックすることによってアイテムをダウンロードできます。



選択アイテムと同じ件名を持つ、すべてのアイテムを検索します。この機能は **Exchange** メールアイテムの階層表示も行います。



印刷のために現在のアイテムを送信します。

マーク

現在のアイテムに割り当て済みのマークを示します。

状態

現在のアイテムの状態を表示します。

フィルタペイン

フィルタペインはリストのアイテムをフィルタ処理できる多数の基準を提供します。フィルタの各オプションの隣の番号は、選択したフィルタを適用するとき **Discovery Accelerator** がアイテムリストに追加する一致するアイテム数を示します。

p.32 の「[レビューペインのアイテムのフィルタ処理](#)」を参照してください。

アイテム一覧

アイテム一覧は選択したフィルタのオプションと一致するレビューセット内のアイテムを示します。リストの下部にあるコントロールを使用してアイテムのページをめくったり、ページごとに表示するアイテムの最大数を指定します。未レビューアイテムは太字で表示されます。

色が青になっているアイテムはいずれも、ケースに関連付けられているリサーチフォルダにあります。

メモ: **Discovery Accelerator** はアイテムの日時の値を協定世界時 (UTC) として格納します。ただし、アイテムリストと右の[プレビュー]ペインでは、コンピュータのローカルタイムゾーンの設定に従ってこれらの値を変換します。その結果、異なるタイムゾーンの 2 人の **Discovery Accelerator** レビューアに対して、同じアイテムに異なる日時が表示されることがあります。

これは予測どおりの動作であり、**Microsoft Outlook** などのアプリケーションがアイテムの日時を表示する方法と同じです。

閲覧ペイン

閲覧ペインの下部のタブには次の機能があります。

プレビュー

現在のアイテムの **HTML** のプレビューを表示します。

コメント

現在のアイテムにレビューアが割り当てたコメントを示します。

履歴	現在のアイテムのコメントと監査履歴を表示します。
印刷可能	現在のアイテムの印刷可能バージョンを表示します。
リーガルホールド	現在のアイテムの保存に関する情報を表示し、ユーザーが Enterprise Vault アーカイブからアイテムを削除しないようにします。

フッター領域

フッター領域には、あるアイテムから別のアイテムにナビゲートする機能とマークとコメントをアイテムに適用する機能があります。



レビューするアイテムの最初のページを表示します。



レビューするアイテムの前のページを表示します。**Alt+z** キーを押すと同じ機能を実行できます。

n (m)

現在表示されているページの番号とページの合計数を示します。特定のページに移動するには、フィールドに番号を入力して**Enter** キーを押します。



レビューするアイテムの次のページを表示します。**Alt+x** キーを押すと同じ機能を実行できます。



レビューするアイテムの最後のページを表示します。

コメント

コメントを入力して選択されたアイテムに追加できます。

アイテム一覧では、1 つ以上のコメントがアイテムに追加されると [存在するコメント] 列にコメントインジケータ記号が表示されます。

マークなし、関連あり、クエリー、
関連なし

選択されたアイテムに必要なマークを付けます。

アクション

選択したアイテムに以下の処理を実行できる追加オプションが表示されます。

Discovery Accelerator でのロールによって、これらのオプションが利用可能かどうかが決まります。



選択したアイテムにタグ (補助的なマーク) を適用します。

タグとマークの相違点は、タグはアイテムに複数割り当てることができるが、マークは 1 つのみを割り当てることができるという点です。さらに、アイテムにマークを割り当てることで、それに関連付けされた状態も割り当てることになります。これは関連付けされた状態がないタグの場合には適用されません。



Discovery Accelerator が選択アイテムの自動分類に使ったマークまたはタグを受け入れます。



現在のレビューセットの選択アイテムまたはすべてのアイテムのコピー先リサーチフォルダを選択します。



レビューセットまたは **Enterprise Vault** アーカイブから 1 つ以上のアイテムを削除します。

レビューペインのアイテムのフィルタ処理

レビューペインの左側にあるオプションは、レビューを行うアイテムをフィルタ処理できる多数の基準を提供します。

レビューペインのアイテムをフィルタ処理する方法

- 1 フィルタペインの先頭の[ケース]ドロップダウンリストで、レビューセットにアイテムを表示するケースまたはフォルダを選択します。
- 2 [アイテム]ドロップダウンリストで、レビューするアイテムのグループを選択します。オプションは次のとおりです。

一時的な割り当て

このオプションでは、レビューセット内の特定の数のアイテムを予約できます。作業が完了するまで、他のレビューアはこれらのアイテムを参照できません。

すべてのアイテム

このオプションでは、アイテムが他のレビューアに割り当てられている場合でも、レビューセットのすべてのアイテムを表示できます。

このオプションを使うと、他のレビューアの作業と重複することがあります。したがって、他のレビューアが同時に作業していない場合、またはマーク付けせずにアイテムを参照する場合にのみこのオプションを選択することを推奨します。

マイアイテム

このオプションでは、ケース管理者によって割り当てられたアイテムをレビューできます。

- 3 選択したケースで分析を有効にした場合は、[検索]領域の機能を使って指定した基準に一致するアイテムを検索します。

p.36 の「[レビューセット内での検索](#)」を参照してください。

- 4 [フィルタ]セクションでは、適用するファセット(アイテムの分類)を選択します。利用可能な値を表示するには、ファセットの名前または名前の左側にある矢印をクリックします。

次の表は利用可能なすべてのファセットをリストしたものです。



添付ファイルの種類

(分析に対して有効なケースの場合にのみ利用可能)アイテムに添付されたファイルの種類を基準にアイテムを選択します。



Author

アイテムを送信した人の名前を基準にアイテムを選択します。

分析に対して有効なケースの場合、電子メールアドレスまたはドメインを基準に作成者を選択することもできます。













キャプチャ日

指定した期間に **Discovery Accelerator** がキャプチャしたアイテムを選択します。



コメント

レビューアがコメントを追加したアイテムを選択します。

	日付	作成された日付を基準にアイテムを選択します。
	Direction	<p>指定した方向に送受信されたアイテムを選択します。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [内部]。作成者とすべての受信者が組織内部の人間であるアイテムを選択します。 ■ [外部インバウンド]。作成者が組織外部の人間で、受信者のうち少なくとも1人が組織内部の人間であるアイテムを選択します。 ■ [外部アウトバウンド]。作成者が組織内部の人間で、受信者のうち少なくとも1人が組織外部の人間であるアイテムを選択します。
	取り込みの状態	(分析に対して有効なケースの場合にのみ利用可能)アイテムが Enterprise Vault アーカイブから Discovery Accelerator のカスタマーデータベースに取り込まれた状態を基準にアイテムを選択します。
	マーク付けの最終実行者	アイテムに最後にマークを割り当てたレビューアを基準にアイテムを選択します。
	リーガルホールドの状態	ケースでのリーガルホールドの状態を基準にアイテムを選択します。
	マーク	レビューアがアイテムに割り当てたマークを基準にアイテムを選択します。
	ルールによるマーク付け	(分析に対して有効なケースの場合にのみ利用可能)自動的にアイテムにマークを付けるために使ったルールを基準にアイテムを選択します。
	添付ファイルの数	アイテムの添付ファイルの数を基準にアイテムを選択します。
	権限がある削除の状態	<p>Enterprise Vault アーカイブからの削除の状態を基準にアイテムを選択します。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ なし。アーカイブから削除されていないアイテムを選択します。 ■ 保留中の削除。アーカイブからの削除がキューに登録されたアイテムを選択します。 ■ 削除に失敗しました。Discovery Accelerator が削除に失敗したアイテムを選択します。 ■ 正常に削除されました。アーカイブから削除されたアイテムを選択します。
	ポリシー	ポリシー管理ソフトウェアがタグ付けに使ったポリシーによってアイテムを選択します。

	ポリシーの処理	<p>ポリシー管理ソフトウェアがタグ付けに使ったポリシーの処理によってアイテムを選択します。この処理は次のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [含める](レビューセットのキャプチャを要求または提案する)。 ■ [除外](レビューセットのキャプチャを除外するか、キャプチャしないことを推進する)。
	受信者	(分析に対して有効なケースの場合にのみ利用可能)受信者の名前、電子メールアドレス、ドメインを基準にアイテムを選択します。
	スケジュール設定済みの検索	1 つ以上のスケジュール設定済みの検索によりキャプチャされたアイテムを選択します。
	検索	1 つ以上の検索によりキャプチャされたアイテムを選択します。
	サイズ (KB)	サイズ (KB) を基準にアイテムを選択します。
	状態	アイテムの状態([保留]、[問題あり]など)を基準にアイテムを選択します。
	タグ	レビューアがアイテムに割り当てたタグを基準にアイテムを選択します。
	ルールによるタグ付け	(分析に対して有効なケースの場合にのみ利用可能)自動的にアイテムにマークを付けるために使ったルールを基準にアイテムを選択します。
	種類	種類を基準にアイテムを選択します。

次の点に注意してください。

- 各ファセット値にはハイパーリンクが設定されています。このハイパーリンクをクリックすると、その値が選択され、それに応じてただちにアイテム一覧がフィルタ処理されます。フィルタから削除するには、再びそのファセット値をクリックします。同じファセット内で 1 つ以上の値がすでに選択されている場合は、別の値をクリックすると他の値が選択解除されます。ただし、別のファセット内で選択されている値は影響を受けません。
- ファセット値の横にある数字は、一致するアイテムの数を示します。フィルタの適用後、アイテム一覧に存在するアイテムの数を示す数字が **Discovery Accelerator** によって更新されます。たとえば、最初の状態では、[作成者]ファセット値にレビューセット全体の一致するアイテムの数が表示されているとします。その後、[状態]ファセット値を[未レビュー]に設定してからこのフィルタを適用すると、[作

成者]の値が更新され、各作成者の未レビューのアイテムの数のみが表示されます。

ファセット値がイタリック体のフォントで表示される場合、一致するアイテムは現在のアイテム一覧に存在しません。

- 1つのファセットに2つ以上の値を選択すると、**Discovery Accelerator** はいずれかの値に一致するアイテムを検索します。たとえば、[保留]と[問題あり]の両方の値を選択することで、そのいずれかの状態にあるすべてのアイテムを表示するように選択できます。
2つ以上の異なるファセットに値を選択すると、**Discovery Accelerator** はすべてのファセットに一致するアイテムを検索します。たとえば、[状態]の値に[保留]、[種類]の値に[Exchange]を選択すると、状態が[保留]で、かつ種類が[Exchange]であるアイテムのみが一致します。
- ファセットに選択可能な値が多数ある場合は、**Discovery Accelerator** は最も関連のある値の簡略一覧を表示します。一覧の最後にある青いハイパーリンクをクリックすることによって、さらに値をリストに追加できます。
- レビューペインのアイテムのフィルタ処理で同じファセット設定を頻繁に使う場合は、[事前設定]フィールドの右にある[保存]ボタンをクリックすることによって、その設定を事前設定として保存できます。その後、ドロップダウンリストから事前設定を選択することによってこの設定を簡単に適用できます。
- ファセット値を右クリックすることによって、アイテムにマークを適用できます。たとえば、特定の作成者を基準にすべてのアイテムにマーク付けするには、一覧にあるその作成者の名前を右クリックしてから[アイテムをすべてマーク付け]をクリックします。

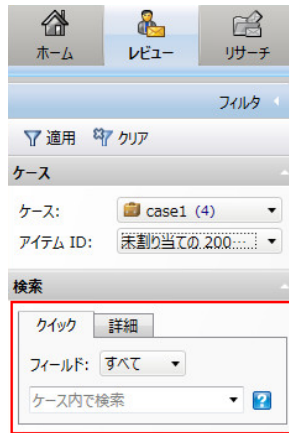
5 フィルタペインの先頭で[適用]をクリックします。

分析に対して有効なケースの場合にのみ利用可能な機能を使った場合は、「取り込みが部分的であるため、結果が不完全である可能性があります。」というメッセージが表示されることがあります。これは、取り込まれたアイテムの数がケースのアイテムの合計数と異なる場合に表示されます。たとえば、分析に対してケースを有効にする前に、ケースのアイテムの一部が **Enterprise Vault** から削除された可能性があります。

レビューセット内での検索

分析に対してケースが有効になると、レビューペインの左側にある[フィルタ]領域には、レビューセット内のアイテムの検索を実行できる追加オプションが表示されます。クイック検索と詳細検索の2種類の検索が利用可能です。

図 3-1 レビューペインの[クイック検索]タブと[詳細検索]タブ



クイック検索の実行

クイック検索機能を使って、[差出人]や[件名]など、検索する 1 つ以上のフィールドと必要な値を指定します。

次の表にクイック検索機能と、検索でその機能を使う方法の例を示します。

表 3-1 クイック検索の機能

機能	例
ブール演算子	bill AND sue bill OR bob bill AND NOT "bill smith"
カッコ	(bill OR sue) AND (bill OR bob)
NEAR 演算子	stock NEAR price
検索範囲	from:bob AND (subject:stock OR subject:"share price")
ワイルドカード	stock* OR share*

クイック検索を実行する方法

- 1 レビューペインの左側にある[検索]領域の[クイック]タブで検索範囲を設定します。次のいずれかの操作を実行できます。

- [フィールド]一覧で、必要なメッセージ属性を選択します。たとえば、レビューセット内のすべてのアイテムの件名と本文を検索するには[件名または内容]を選択します。
- [ケース内で検索]フィールドに **all**、**from**、**to**、**fromto**、**subject**、**content**、**subjcont** のいずれかの属性キーワードを入力し、その後ろにコロンと検索する単語またはフレーズを入力します。たとえば、作成者が **Bob** のアイテムを検索するには **from:Bob** と入力します。

2 つ目の検索範囲の設定方法が 1 つ目の方法よりも優先されます。

- 2 [フィールド]一覧で属性を選択することによって検索範囲を設定した場合は、[ケース内で検索]フィールドに検索する単語またはキーワードを入力します。
- 3 [適用]をクリックします。

クイック検索の基準は保存できないことに注意してください。ただし、[クイック]タブには最近実行した検索の履歴が残ります。この履歴には特定のケースではなく、分析を有効にしたすべてのケースの検索が含まれます。

詳細検索の実行

詳細検索機能を使うと、複数の条件を含む複合検索を構築できます。クイック検索とは異なり、詳細検索は保存して再利用できます。

詳細検索を実行する方法

- 1 レビューペインの左側にある[検索]領域の[詳細]タブで[新規検索]をクリックします。

[詳細検索]ダイアログボックスが表示されます。

- 2 検索の名前と説明を入力します。
- 3 [検索ビルダー]領域で、アイテムが満たす必要のある 1 つ以上の条件を定義します。条件を定義するには、次の手順を実行します。
 - [選択属性]ドロップダウンリストで、検索するアイテムの属性を選択します。たとえば、アイテムの件名を検索する場合は[件名]を選択します。
p.41 の「[検索属性について](#)」を参照してください。
 - 次のドロップダウンリストで、選択した属性に適用する演算子を選択します。たとえば、属性を[件名]に設定した場合、**Contains** 演算子を選択して件名に特定の語句が含まれるアイテムを検索できます。
p.51 の「[演算子について](#)」を参照してください。
 - 属性に目的の値を設定します。たとえば、属性が[件名]で演算子が **Contains** の場合は、**Secret** と入力して件名にこの単語を含むアイテムを検索できます。次の点に注意してください。
 - 検索文字列には、アンダースコア文字以外の区切り文字を含めることはできません。

- 検索文字列の末尾にワイルドカード文字としてアスタリスク (*) を追加できます。
- **SQL Server** では、「the」や「and」などのよく出現する語句はインデックス付けされないため、検索文字列にこれらの語句があっても、**Discovery Accelerator** は無視します。**SQL Server** のストップワードファイルを編集すると、この動作を上書きできます。

p.53 の「**SQL Server のストップワードについて**」を参照してください。

- 属性を[件名]、[内容]、[件名または内容]に設定した場合、検索ステミングのオンとオフの切り替えを選択します。
ステミングを使うと、指定した単語から派生した単語に一致させることができます。たとえば、単語「run」は「running」と「ran」に一致します。ステミングを使う条件ではワイルドカード文字を使うことはできません。
- 必要に応じて、[+]ボタンをクリックして条件を保存して別の条件を追加します。たとえば、指定した作成者が[作成者]フィールドに含まれ、指定した文字列が[件名]フィールドに含まれるアイテムを検索する場合があります。
[および]または[または]ボタンを使って2つの条件の関係を定義します。[および]はアイテムが両方の条件に一致する必要があることを示し、[または]はアイテムが1つの条件に一致してももう一方の条件に一致するとは限らないことを示します。
- 条件を削除する場合は、行の右にある[-]ボタンをクリックします。

条件を追加すると、条件は[検索クエリー]領域に表示されます。クエリー言語に詳しい場合は、構文を手動で編集してより複雑なクエリーを構築できます。

p.54 の「**手動での分析ルール定義言語 (RDL) のクエリーの編集**」を参照してください。

- 4 カストディアンマネージャを使って 1 つ以上のカストディアンまたはカストディアングループを定義した場合、それらの検索方法を指定するには[検索条件の設定]領域のフィールドを使います。各ケースで、電子メールアドレス、表示名、またはその両方を検索できます。カストディアングループの場合、リストの名前や電子メールアドレスだけでなく、検索にメンバーを含めるようにグループの配布リストを展開できます。

メモ: Near 演算子を属性[件名]、[内容]、[件名または内容]、[作成者]、[宛先]、[CC]、[BCC]、[作成者または受信者]に使うと、Discovery Accelerator は配布リストを展開しません。

[検索条件の設定]領域の下で入力する条件は、検索の構築時に利用可能なカストディアン情報を使います。この情報は、検索を再び編集しないと更新されません。たとえば、検索を作成し、[配布リストを展開してメンバーを含める]オプションを選択する場合、その時点でのリストのメンバーが検索とともに保存されます。リストに所属するメンバーがその後変更されても、検索を編集して再び保存するまでその変更は適用されません。

- 5 [保存]をクリックし、次に[適用]をクリックします。

検索属性について

表 3-2 は利用可能なすべての属性をリストします。各属性に対して、表は属性と一緒に使うことができる演算子を示し、その目的を記述しています。

表 3-2 検索属性

属性	種類	有効な演算子	説明
AttachmentsCount	数字	= > >= < <=	AttachmentsCount は電子メールの添付ファイルの数に基づく条件を追加するために使います。

属性	種類	有効な演算子	説明
Author	文字列	CONTAINS ANYOF NOT CONTAINS NOT ANYOF	<p>Authorは電子メールの送信者に基づく条件を追加するために使います。</p> <p>フルネームは二重引用符 (") で囲みます。名、姓、ミドルネームを個別に入力することもできます。</p> <p>対象 (T:)、対象グループ (TG:)、カストディアン (C:)、カストディアングループ (CG:) に対応する値は、別の行にする必要があります。T: や TG: などの接頭辞は大文字にする必要があります。</p> <p>カストディアンはカストディアンのプライマリ属性値によって識別し、カストディアングループ、対象と対象グループはそれらの表示名によって識別します。</p>
AuthorOrRecipients	文字列	CONTAINS ANYOF NOT CONTAINS NOT ANYOF	<p>AuthorOrRecipients は次の属性のいずれかの送信者そして受信者に基づく条件を追加することを可能にする複合属性です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ From ■ To ■ CC ■ BCC <p>フルネームは二重引用符 (") で囲みます。名、姓、ミドルネームを個別に入力することもできます。</p> <p>対象 (T:)、対象グループ (TG:)、カストディアン (C:)、カストディアングループ (CG:) に対応する値は、別の行にする必要があります。T: や TG: などの接頭辞は大文字にする必要があります。</p> <p>カストディアンはカストディアンのプライマリ属性値によって識別し、カストディアングループ、対象と対象グループはそれらの表示名によって識別します。</p>

属性	種類	有効な演算子	説明
BCC	文字列	CONTAINS ANYOF ALLOF NOT CONTAINS NOT ALLOF NOT ANYOF	<p>BCC は電子メールの BCC 受信者に基づく条件を追加するために使います。</p> <p>フルネームは二重引用符 (") で囲みます。名、姓、ミドルネームを個別に入力することもできます。</p> <p>対象 (T:)、対象グループ (TG:)、カストディアン (C:)、カストディアングループ (CG:) に対応する値は、別の行にする必要があります。T: や TG: などの接頭辞は大文字にする必要があります。</p> <p>カストディアンはカストディアンのプライマリ属性値によって識別し、カストディアングループ、対象と対象グループはそれらの表示名によって識別します。</p>
CC	文字列	CONTAINS ANYOF ALLOF NOT CONTAINS NOT ALLOF NOT ANYOF	<p>CC は電子メールの CC 受信者に基づく条件を追加するために使います。</p> <p>フルネームは二重引用符 (") で囲みます。名、姓、ミドルネームを個別に入力することもできます。</p> <p>対象 (T:)、対象グループ (TG:)、カストディアン (C:)、カストディアングループ (CG:) に対応する値は、別の行にする必要があります。T: や TG: などの接頭辞は大文字にする必要があります。</p> <p>カストディアンはカストディアンのプライマリ属性値によって識別し、カストディアングループ、対象と対象グループはそれらの表示名によって識別します。</p>

属性	種類	有効な演算子	説明
内容	文字列	CONTAINS ANYOF ALLOF NEAR NOT CONTAINS NOT ALLOF NOT ANYOF	<p>Content は電子メールの本文の文字列またはファイルのコンテンツに基づく条件を追加するために使います。</p> <p>フレーズは二重引用符 (") で囲みます。 NEAR 以外のすべての利用可能な演算子に対して、検索ステミングのオンとオフの切り替えを選択できます。NEAR 演算子を使う場合、配布リストを展開するようにルールビルダーのどこかでこのオプションを選択しても、Discovery Accelerator は配布リストを展開しません。</p> <p>対象 (T:)、対象グループ (TG:)、カストディアン (C:)、カストディアングループ (CG:) に対応する値は、別の行にする必要があります。T: や TG: などの接頭辞は大文字にする必要があります。</p> <p>カストディアンはカストディアンのプライマリ属性値によって識別し、カストディアングループ、対象と対象グループはそれらの表示名によって識別します。</p>

属性	種類	有効な演算子	説明
Custom	文字列	= NOT = CONTAINS ANYOF ALLOF NOT CONTAINS NOT ALLOF NOT ANYOF	<p>Custom はアーカイブ時に作成されたあらゆるカスタム属性に基づく条件を追加するために使います。演算子を選択して検索文字列を入力する前にカスタム属性の名前を入力してください。</p> <p>次に例を示します。</p> <p><code>Custom.Veritas.MyAttribute CONTAINS "Veritas"</code></p> <p>フレーズは二重引用符 (") で囲みます。 ANYOF または NOT ANYOF 演算子を選択すると、複数の値をカンマで区切ることができます。</p> <p>対象 (T:)、対象グループ (TG:)、カストディアン (C:)、カストディアングループ (CG:) に対応する値は、別の行にする必要があります。T: や TG: などの接頭辞は大文字にする必要があります。</p> <p>カストディアンはカストディアンのプライマリ属性値によって識別し、カストディアングループ、対象と対象グループはそれらの表示名によって識別します。</p>
Direction	リスト	= ANYOF NOT = NOT ANYOF	<p>Direction は電子メールの方向に基づく条件を追加するために使います。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Internal ■ External Inbound ■ External Outbound ■ Not Specified
FileExtension	文字列	ANYOF CONTAINS NOT ANYOF NOT CONTAINS	<p>FileExtension は電子メールの拡張子の種類とファイルの種類に基づく条件を追加するために使います。複数のファイルの種類をリストとして入力します。次に例を示します。</p> <p><code>DOC PDF MSG</code></p> <p>フレーズは二重引用符 (") で囲みます。 ANYOF または NOT ANYOF 演算子を選択すると、複数の値をカンマで区切ることができます。</p>

属性	種類	有効な演算子	説明
Importance	リスト	= ANYOF NOT = NOT ANYOF	Importance は電子メールの重要度の設定に基づく条件を追加するために使います。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Low ■ Normal ■ High
MailDate	日付	= > >= < <= BETWEEN NOT BETWEEN	MailDate は電子メールが送信された日付と、電子メールの添付ファイルの修正日に基づく条件を追加するために使います。 BETWEEN と NOT BETWEEN 演算子を使うとき、開始日と終了日を指定する必要があります。
MessageClass	文字列	ANYOF CONTAINS NOT ANYOF NOT CONTAINS	MessageClass は電子メールの MAPI メッセージクラスの設定に基づく条件を追加するために使います。次に例を示します。 IPM.Note. フレーズは二重引用符 (") で囲みます。ANYOF または NOT ANYOF 演算子を選択すると、複数の値をカンマで区切ることができます。
MessageType	リスト	= ANYOF NOT = NOT ANYOF	MessageType は電子メールの種類に基づく条件を追加するために使います。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Bloomberg ■ Domino Mail ■ Exchange Mail ■ Fax ■ File ■ Instant Messaging ■ SharePoint ■ SMTP Mail ■ ソーシャル

属性	種類	有効な演算子	説明
ModifiedDate	日付	= > >= < <= BETWEEN NOT BETWEEN	<p>ModifiedDate は電子メールかファイルが前回修正された日付に基づく条件を追加するために使います。</p> <p>BETWEEN と NOT BETWEEN 演算子を使うとき、開始日と終了日を指定する必要があります。</p>
OriginalLocation	文字列	ANYOF CONTAINS NOT ANYOF NOT CONTAINS	<p>OriginalLocation は電子メールまたはファイルの元の場所に基づく条件を追加するために使います。次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Inbox ■ Sent items ■ ¥¥server¥share¥Sales <p>フレーズは二重引用符 (") で囲みます。 ANYOF または NOT ANYOF 演算子を選択すると、複数の値をカンマで区切ることができます。</p>
Recipients	文字列	CONTAINS ANYOF NOT CONTAINS NOT ANYOF	<p>Recipients は次の属性のいずれかの受信者に基づく条件を追加することを可能にする複合属性です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ To ■ CC ■ BCC <p>対象 (T:)、対象グループ (TG:)、カストディアン (C:)、カストディアングループ (CG:) に対応する値は、別の行にする必要があります。T: や TG: などの接頭辞は大文字にする必要があります。</p>
RetentionCategoryDisplayName	文字列	CONTAINS NOT CONTAINS	<p>RetentionCategoryDisplayName はアイテムがアーカイブされた保持カテゴリに基づく条件を追加するために使います。次に例を示します。</p> <p>General retention category</p>

属性	種類	有効な演算子	説明
RetentionExpiryDate	日付	= > >= < <= BETWEEN NOT BETWEEN	<p>RetentionExpiryDate は電子メールかファイルが期限切れになる日付に基づく条件を追加するために使います。アイテムがアーカイブされた保持カテゴリによって有効期限が決まります。</p> <p>BETWEEN と NOT BETWEEN 演算子を使うとき、開始日と終了日を指定する必要があります。</p>
Sensitivity	リスト	= ANYOF NOT =	<p>Sensitivity は電子メールの機密性に基づく条件を追加するために使います。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Normal ■ Personal ■ Private ■ Confidential
Size	数字	= > >= < <=	<p>Size は電子メールまたはファイルのサイズに基づく条件を追加するために使います。</p>

属性	種類	有効な演算子	説明
Subject	文字列	CONTAINS ALLOF ANYOF NEAR NOT CONTAINS NOT ALLOF NOT ANYOF	<p>Subject は電子メールの件名とファイル名の文字列に基づく条件を追加するために使います。</p> <p>フレーズは二重引用符 (") で囲みます。NEAR 以外のすべての利用可能な演算子に対して、検索ステミングのオンとオフの切り替えを選択できます。NEAR 演算子を使う場合、配布リストを展開するようにルールビルダーのどこかでこのオプションを選択しても、Discovery Accelerator は配布リストを展開しません。</p> <p>対象 (T:)、対象グループ (TG:)、カストディアン (C:)、カストディアングループ (CG:) に対応する値は、別の行にする必要があります。T: や TG: などの接頭辞は大文字にする必要があります。</p> <p>カストディアンはカストディアンのプライマリ属性値によって識別し、カストディアングループ、対象と対象グループはそれらの表示名によって識別します。</p>

属性	種類	有効な演算子	説明
SubjectOrContent	文字列	CONTAINS ALLOF ANYOF NEAR NOT CONTAINS NOT ALLOF NOT ANYOF	<p>SubjectOrContent は次の属性のいずれかの文字列に基づく条件を追加することを可能にする複合属性です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Subject ■ Body <p>この属性はファイルの名前またはコンテンツの文字列で一致させる場合にも使われます。</p> <p>フレーズは二重引用符 (") で囲みます。</p> <p>NEAR 以外のすべての利用可能な演算子に対して、検索ステミングのオンとオフの切り替えを選択できます。NEAR 演算子を使う場合、配布リストを展開するようにルールビルダーのどこかでこのオプションを選択しても、Discovery Accelerator は配布リストを展開しません。</p> <p>対象 (T:)、対象グループ (TG:)、カストディアン (C:)、カストディアングループ (CG:) に対応する値は、別の行にする必要があります。T: や TG: などの接頭辞は大文字にする必要があります。</p> <p>カストディアンはカストディアンのプライマリ属性値によって識別し、カストディアングループ、対象と対象グループはそれらの表示名によって識別します。</p>
To	文字列	CONTAINS ANYOF ALLOF NOT CONTAINS NOT ALLOF NOT ANYOF	<p>To は電子メールの受信者に基づく条件を追加するために使います。</p> <p>フルネームは二重引用符 (") で囲みます。名、姓、ミドルネームを個別に入力することもできます。</p> <p>対象 (T:)、対象グループ (TG:)、カストディアン (C:)、カストディアングループ (CG:) に対応する値は、別の行にする必要があります。T: や TG: などの接頭辞は大文字にする必要があります。</p> <p>カストディアンはカストディアンのプライマリ属性値によって識別し、カストディアングループ、対象と対象グループはそれらの表示名によって識別します。</p>

演算子について

演算子は次のカテゴリに分類されます。

- 1 つの検索値のみを受け入れる単一値演算子
- 複数の検索値を受け入れる複数値演算子

表 3-3 は利用可能なすべての単一値演算子をリストします。

表 3-3 単一値演算子

演算子	説明
=, NOT =	数字、日付、一覧に使用します。次に例を示します。 <code>AttachmentsCount = 2</code>
<, <=, >, >=	数字と日付に使用します。
CONTAINS, NOT CONTAINS	文字列に使用します。検索値にはワイルドカードを使うことができます。 例 1: <code>Subject CONTAINS 'james'</code> この検索では、件名に「james」と完全一致する単語を含むすべてのアイテムが一致します。 例 2: <code>Subject CONTAINS 'james*'</code> この検索では、「A quick hello from James」と「A quick hello from Jamestown」のいずれも一致します。 検索文字列の先頭にワイルドカード文字を使うことはできません。

表 3-4 は利用可能なすべての複数値演算子をリストします。

表 3-4 複数値演算子

演算子	説明
ALLOF、NOT ALLOF	<p>文字列に使用します。</p> <p>検索では、指定したすべての値を含む (または含まない) アイテムが一致します。次に例を示します。</p> <pre>CC ALLOF 'bill@example.com ted@example.com'</pre> <p>この検索では、[CC]フィールドに両方のアドレスを含むアイテムのみが一致します。</p> <p>ワイルドカードがサポートされています。</p>
ANYOF、NOT ANYOF	<p>文字列に使用します。</p> <p>検索では、指定した任意の値を含む (または含まない) アイテムが一致します。次に例を示します。</p> <pre>CC ANYOF 'bill@example.com ted@example.com'</pre> <p>この検索では、[CC]フィールドにアドレスのいずれか、または両方のアドレスを含むアイテムが一致します。</p> <p>ワイルドカードがサポートされています。</p>
BETWEEN、NOT BETWEEN	<p>日付に使用します。次に例を示します。</p> <pre>MailDate BETWEEN "01/05/2010","31/05/2010"</pre> <p>古い日付から新しい日付の順にする並べ必要があります。</p>
NEAR	<p>文字列に使用します。</p> <p>検索では、指定した語句がそれぞれの語句から 50 語以内にある語句が一致します。次に例を示します。</p> <pre>Content NEAR 'contract money'</pre> <p>この検索では、本文に「contract」と「money」という単語がそれぞれの語句から 50 語以内に含まれるアイテムが一致します。</p> <p>p.53 の「Discovery Accelerator ルールでの NEAR 演算子条件の使用に関するガイドライン」を参照してください。</p>

複数値演算子を含む検索の構文は次のとおりです。

```
attribute operator 'value1
"John Doe"
value3
T:Jane Smith'
```

各カスタディアンや各対象値は、別の行にする必要があります。

Discovery Accelerator ルールでの NEAR 演算子条件の使用に関するガイドライン

ルールで NEAR 演算子条件を使う場合は、いくつかのガイドラインに従う必要があります。

- NEAR 演算子条件には入力として複数の値を指定する必要があります。
- NEAR 演算子を使う条件と他の 1 つ以上の条件を組み合わせる場合は、OR 演算子ではなく、AND 論理演算子のみを使って前と後ろの条件に NEAR 演算子条件を結合できます。たとえば、次のルールを考えてみます。

```
Subject contains 'Veritas'  
AND  
Content Near 'Veritas Investment'  
AND  
MailDate = '17/03/2010'  
OR  
Importance = 'Normal'
```

OR 演算子は、Subject と Content 条件の間、または Content と MailDate 条件の間には挿入できません。ただし、MailDate と Importance 条件の間に OR 条件を挿入することはできます。

- ルールに複数の NEAR 演算子条件を含める場合は、それらすべてに同じ検索属性 (Subject、Content、SubjectOrContent) を使う必要があります。たとえば、2 つの NEAR 演算子条件を含むルールでは、一方の条件の属性を Subject に設定し、もう一方を Content に設定することはできません。
- NEAR 演算子を使うルール条件にはカッコを挿入できません。
- ルールに複数の NEAR 演算子条件を含める場合に異なる言語で検索値を指定すると、Discovery Accelerator がそのルールで実行するすべての検索に使う言語は、最初の NEAR 演算子条件の言語によって決まります。

SQL Server のストップワードについて

フルテキストインデックスが過剰にならないように、「the」や「and」などのよく出現する語句を破棄する機構が SQL Server にはあります。破棄されたこれらのワードをストップワードと呼びます。インデックスの作成中、SQL 全文検索エンジンは全文インデックスからストップワードを省略するため、Discovery Accelerator を使ってこれらのワードを検索することはできません。たとえば、フレーズ「the lazy dog」を検索すると、フレーズ「one lazy dog」が一致したという結果が返されます。

SQL Server のストップワードファイルを編集すると、この動作を上書きできます。次の Microsoft サポート技術情報の記事では、実行方法を説明しています。

<https://msdn.microsoft.com/library/ms142551.aspx>

ストップワードは、SQL インスタンスのすべての全文カタログに共通であることに注意してください。

手動での分析ルール定義言語 (RDL) のクエリーの編集

[ルールビルダー]タブの[ルール条件]領域で構築するルールは[ルールクエリー]領域に分析ルール定義言語 (RDL) で表示されます。ルール定義言語の構文に詳しい場合は、直接クエリーを編集できます。これはビジュアルルールビルダーでは使うことができないルールを作成することを可能にします。

メモ: 手動でクエリーを編集し、保存したら、もはや同じルールを編集するためにビジュアルクエリービルダーを使うことができません。

カッコの使用による分析 RDL のブールの優先度の設定

ブールの優先度をルールに設定するためにカッコを使うことができます。次の条件と一致するアイテムにマーク付けする、またはタグ付けするとします。

- 送信者が John Doe です。または、受信者が Jane Smith です。
- 電子メールの件名は「Veritas」という用語を含まなければなりません。

これらのアイテムと一致させるために、あるユーザーがビジュアルルールビルダーを使い、次のルールを構築することがあります。

```
Author CONTAINS '"John Doe"'
OR
To CONTAINS '"Jane Smith"'
AND
Subject CONTAINS 'Secret'
```

ただし、他のユーザーは、別のルールを構築して、次の記述を作成することがあります。

```
To CONTAINS '"Jane Smith"'
AND
Subject CONTAINS 'Secret'
OR
Author CONTAINS '"John Doe"'
```

いずれの場合も、ルールエンジンがルールを処理するときどんな結果が生成されるかは明白ではありません。ルールで希望どおりの結果が生成されるようにするには、RDL にそれらを直接書き込み、そしてカッコを使って一緒に属する条件をグループ化します。カッコによって、関連する条件が意図どおりに確実に評価されるため、目的が明白になります。次に例を示します。

```
(  
Author CONTAINS '"John Doe"'  
OR  
To CONTAINS '"Jane Smith"'  
)  
AND  
Subject CONTAINS 'Secret'
```

分析 RDL でのステミングの使用

[件名]、[内容]、[件名または内容]の属性を検索する場合は、ステミングを使うことができます。次の構文を使います。

```
attribute {STEM} operator value
```

メモ: ステミングを使うルール条件ではワイルドカード文字を使うことはできません。

検索に追加するフレーズの値は、二重引用符で囲む必要があります。次に例を示します。

```
subject contains "the purchase order"
```

RDL 複合検索の値は、二重引用符で囲む必要があります。次に例を示します。

```
SubjectOrContent AllOf  
,  
    "the purchase order"  
    Stock Investment  
,
```

この場合、クエリーでは、件名または本文中の「the purchase order」、「stock」、「investment」を含むアイテムが一致します。

分析 RDL でのカストディアンと対象値の指定

表 3-5 に示す形式で、手動により編集した分析ルールでカストディアン値か対象値を指定する必要があります。

表 3-5 分析 RDL でカストディアン値と対象値を指定する方法

アイテム	入力する内容	例
カストディアン	C: ID: <i>primary_attribute_value</i>	C: 11: E12345
カストディアングループ	CG: ID: <i>display_name</i>	CG:3:Employees-ALL
対象	T:ID: <i>display_name</i>	T:4:Jane Smith

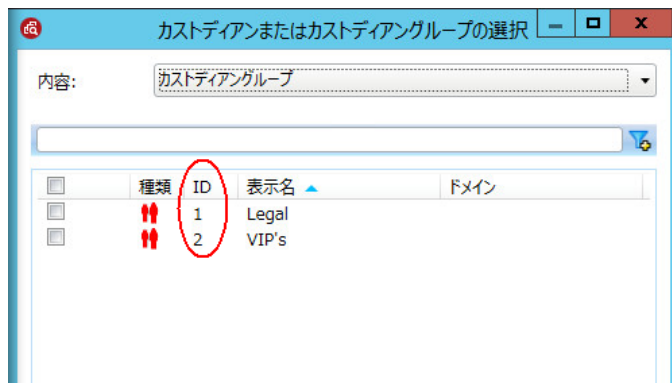
アイテム	入力する内容	例
対象グループ	TG:ID:display_name	TG:23:VIP - Executives

カストディアンプライマリ属性値がアポストロフィを含んでいるとき、アポストロフィの前にバックスラッシュ (¥) を入力する必要があります。たとえば、プライマリ属性値が「Sean O'Casey」の場合、このように分析ルールに追加します。

Author CONTAINS 'C:8:Sean O¥'Casey'

[ルールビルダー] タブの [ルールクエリー] 領域の [クエリーの編集] をクリックした後、[対象選択ツールの起動] ボタンが領域の右側に表示されます。正しい形式で目的のカストディアン値か対象値を選択し、入力するためにこのボタンをクリックします。また、図 3-2 に示すように、この方法を使ってカストディアンまたは対象の目的の ID 値を入手できます。

図 3-2 対象選択ツールの使用によるカストディアンまたは対象の ID 値の入手



同じ対話のすべてのアイテムの検索

分析に対して有効なケースの場合、Discovery Accelerator はデータを取り込むときにケースのアイテムを分析します。この分析が完了すると、現在の件名と同じ件名があるすべてのアイテムを簡単に検索できます。

対話分析は主としてメールアイテムの件名に基づきますが、分析には対話を定義するその他のメールの属性も含まれます。対話分析のために、Discovery Accelerator はメールの件名を正規化して電子メールクライアントが追加した接頭辞を削除します。たとえば、[RE:]、[Re:]、[Fwd:]、[Antwort:]などは削除されます。正規の状態に戻された後は、Discovery Accelerator に同じ対話の一部と判断されるようにメッセージには同じ件名を使う必要があります。

Outlook 2003 以降で生成されたメッセージでは、対話分析で対話階層を作成することもできます。Outlook 2003 よりも前の Outlook クライアントのアイテムは、階層化されていない一覧でグループ化されます。

対話分析では、「Hello」のように頻繁に使われる電子メールの件名を持つ対話が多く見つかることがあります。この場合、対話ウィンドウには複数の対話のすべての結果が表示され、各対話の階層の最上位アイテムも表示されます。対話には、階層の最上位アイテムを 1,000 まで表示できます。

同じ対話のすべてのアイテムを検索する方法

- 1 レビューペインで、すべての関連するアイテムを検索するアイテムを選択します。
- 2 アイテムを右クリックして[対話の表示]をクリックします。

Discovery Accelerator は別の対話ウィンドウの関連するアイテムをリストします。ウィンドウで、アイテムは送信者か日付によって、また可能な限り、アイテム階層の場所によってソートされます。未レビューアイテムは太字で表示されます。

メモ: ケースまたはフォルダの分析データの取り込みが完了するまで、対話ウィンドウには対話の一部のアイテムが表示されないことがあります。分析データの取り込みが完了した場合でも、Discovery Accelerator によってデータが取り込まれなかったアイテムは対話分析の結果に含まれません。

- 3 対話ウィンドウの機能を使ってアイテムを処理します。たとえば、アイテムにマークとタグを適用したり、印刷可能バージョンを表示したり、アイテムをダウンロードまたはコピーできます。

アイテムへのレビューマークとタグの割り当て

レビュー処理の一部として、レビューに問題がなかったこと、または問題があるため問い合わせる必要があることを示す状態マークを各メッセージに割り当てます。

アイテムにマークを割り当てるに加えて、またはマークを割り当てる代わりに、アイテムにタグを割り当てることができます。タグとマークには、次の 2 つの相違点があります。

- タグはアイテムに複数割り当てることができるが、マークは 1 つのみを割り当てることができます。
- アイテムにタグを割り当てても、処理状態は変更されません。この状態が変更されるのは、[関連あり]または[クエリー]のような主要なマークボタンの 1 つをクリックするときのみです。

分析に対して有効なケースの場合、アイテムは分析ルールによってマーク付け、タグ付けされている可能性があります。レビューペインを使ってこれらのアイテムの自動分類を受け入れることができます。

ヒント:

- アイテムリストでは、未レビューアイテムのヘッダーは太字のフォントで表示されます。
- 左ペインのオプションを右クリックして目的のマークを選択することによって、ある特定のフィルタのオプションと一致するすべてのアイテムにすばやくマーク付けできます。
- 一覧ビューのアイテムを右クリックすると、レビューセット内のアイテムに一括でマーク付けする追加コマンドにアクセスできます。

レビューマークまたはタグをアイテムに割り当てる方法

- 1 レビューペインで、マークを付けるアイテムを選択します。

複数の隣接したアイテムを選択するには、最初のアイテムをクリックし、**Shift** キーを押しながら最後のアイテムをクリックします。隣接していないアイテムを選択するには、最初のアイテムをクリックし、**Ctrl** キーを押しながら追加のアイテムをクリックします。すべてのアイテムを選択するには、**Ctrl+A** を押します。

- 2 次の 1 つ以上の操作をします。

- マークをアイテムに割り当てるには、ペインの右下にある適切なボタンをクリックします。
しばらくすると、**Discovery Accelerator** によってアイテムの状態が変更されます。
- タグをアイテムに割り当てるには、読み込みペインの下の方の[タグ]ボタンをクリックし、次に目的の値を選択します。
- 分析ルールによってこのケースのアイテムに適用されたマークとタグを受け入れるには、ペインの右下の方の[処理]をクリックして、[同意]をポイントします。

コメントのアイテムへの追加

アイテムにレビューマークを割り当てるだけでなく、コメントを追加できます。

コメントをアイテムに追加するには

- 1 レビューペインで、コメントを追加する 1 つ以上のアイテムを選択します。
- 2 ペインの下部にある[コメント]フィールドに新規コメントを入力します。
- 3 [コメント]フィールドの右側にあるボタンをクリックします。

Discovery Accelerator はコメントを追加したことを示すためにアイテムリストの[存在するコメント]列にコメントインジケータを表示します。

アイテムに割り当て済みのコメントを表示するために読み込みペインの下部で[コメント]タブをクリックします。また、アイテムリストの列をカスタマイズしてアイテムのコメントを表示する列を追加できます。

アイテムの履歴の表示

Discovery Accelerator では、選択アイテムにレビューアがマークやコメントを割り当てた日時のような選択アイテムの履歴の情報を簡単にアクセスできます。

アイテムの履歴を表示するには

- 1 レビューペインで、履歴を表示するアイテムを選択します。
- 2 読み込みペインの下部で[履歴]タブをクリックします。

Discovery Accelerator は次の詳細を表示します。

- 件名、日付、送信者と受信者の詳細
- Microsoft Exchange、Bloomberg などのアイテムの種類、アイテムの方向 (内部、外部インバウンドまたは外部アウトバウンド)
- Discovery Accelerator でアイテムをキャプチャしたケース
- Discovery Accelerator でアイテムをキャプチャした日時と方法
- Discovery Accelerator 内のアイテムの ID
- アイテムのアーカイブ元の場所
- アイテムの処理状態の履歴。この履歴は、アイテムのプレビューまたは印刷可能バージョンを表示したレビューア、アイテムの元のバージョンをダウンロードしたレビューア、マーク付けしたレビューア、およびレビューアがそれらを行った日時を識別します。レビューセットからリサーチフォルダにコピーしたアイテムの履歴を表示している場合、状態履歴リストで青になっているイベントは、フォルダにアイテムをコピーする前に実行されました。
処理状態の履歴には、アイテムの削除の状態 (Enterprise Vault からの削除がキューに登録されている、すでに正常に削除されている、または削除に失敗した) も含まれます。削除に失敗した場合は、エラーの理由が状態の履歴に表示されます。状態の履歴には、削除の状態を Discovery Accelerator がログ記録した日付と時刻も表示されます。
- ポリシー管理ソフトウェアがアイテムのタグ付けに使ったポリシーとポリシー処理
- SMTP アイテムの場合は、Enterprise Vault が X-header に追加した属性情報

アイテムの印刷可能バージョンの表示

印刷に適した形式でアイテムの内容を表示できます。

アイテムの印刷可能バージョンを表示する方法

- 1 レビューペインで、印刷するアイテムを選択します。
- 2 読み込みペインの下部で[印刷可能]タブをクリックします。

Discovery Accelerator はアイテムの印刷可能バージョンを表示します。

アーカイブからアイテムを削除した場合、Discovery Accelerator にそのメタデータが表示されますが、その内容は表示されません。

- 3 印刷のためにアイテムを送信するには閲覧ペインの先頭で[印刷]ボタンをクリックします。

元のアイテムのダウンロード

アイテムから作成される HTML を表示するほかに、元の形式でコンピュータにアイテムをダウンロードできます。レビューアが割り当てたコメントなどの監査情報はダウンロードされたアイテムには含まれません。アイテムと監査情報の両方を取得する場合は、Discovery Accelerator からアイテムをエクスポートする必要があります。

アイテムの元のバージョンをダウンロードする方法

- ◆ レビューペインで次のいずれかの操作をします。
 - ダウンロードするアイテムをクリックし、次に読み込みペインの上の[元のアイテムの表示]ボタンをクリックします。
 - アイテムを右クリックして[元の表示]をクリックします。

Discovery Accelerator によってアイテムがコンピュータにダウンロードされ、適切なアプリケーションを使って表示されます。

クリップボードへのアイテムリストのコピー

アイテムリストの 1 行またはすべての行を Windows のクリップボードにコピーして、Microsoft Excel などの表計算アプリケーションに貼り付けることができます。コピー情報には、各アイテムの Enterprise Vault 保存セット ID など、Discovery Accelerator のリストには表示されない追加情報が含まれます。アイテムリストの一部の列を非表示に設定したとしても、すべての情報がコピーされます。

クリップボードへアイテムリストをコピーする方法

- 1 レビューペインで次のいずれかの操作をします。
 - アイテムリストの単一行をコピーするには、行を右クリックして[アイテムの詳細をクリップボードにコピーします]をクリックします。

- すべての行をコピーするには、最初に **Ctrl+A** を押してすべての行を選択します。それから右クリックして[アイテムの詳細をクリップボードにコピーします]をクリックします。
- 2 情報を貼り付けるアプリケーションを開きます。
- 3 通常の方法で情報を貼り付けます。

Enterprise Vault アーカイブからのアイテムの削除

権限がある削除が許可されている場合は、Enterprise Vault からアーカイブ済みアイテムを削除できます。デフォルトでは、規制レビューアロールを持つユーザーにのみ、この権限が割り当てられます。

「忘れられる権利」などのデータ保護の法律に従うためにアーカイブからアイテムを削除する必要がある場合など、場合によっては[権限がある削除]の使用が必要になります。ケースレビューセットにアイテムをフェッチし、削除対象としてマークすると、アーカイブから簡単に削除できます。

アイテム一覧の選択したアイテム、レビューセットのすべてのアイテム、または特定の作成者のすべてのアイテムを削除することができます。

レビューセットのアイテムを削除の状態に基づいてフィルタ処理できます。削除に失敗したアイテムのリストを取得して削除用に再送信する場合に便利です。


Enterprise Vault アーカイブからアイテムを削除するには


- 1 [レビュー] ペインで次のいずれかの操作をします。
 - 選択したアイテムを削除するには、アイテムの一覧でこれらのアイテムを選択し、次に[処理]、[削除]の順にクリックします。
隣接した複数のアイテムを選択するには、**Shift** キーを押しながら範囲内の最初と最後のアイテムをクリックします。隣接していない複数のアイテムを選択するには、**Ctrl** キーを押しながら目的のアイテムをクリックします。
 - すべてのアイテムを削除するには、アイテム一覧の任意の場所を右クリックし、[セットからすべての <n> アーカイブ済みアイテムを削除]をクリックします。


- 特定の作成者のすべてのアイテムを削除するには、アイテムの一覧から、その作成者の任意のアイテムを右クリックし、[<n> からのこのセットのすべてのアーカイブ済みアイテムを削除]をクリックします。

2 アイテムを削除することを確認します。

アイテム一覧の[削除の状態]列のアイコンにより、各アイテムの削除の状態が示されます。

 アイテムは **Enterprise Vault** からの削除のキューに登録されています。

 アイテムが正常に削除されました。

 アイテムの削除に失敗しました。[履歴]タブで失敗の理由を確認できます。

削除した後にアイテムをレビューする場合の制限事項

表 3-6 に、アイテムの削除の状況に基づく[レビュー]ペインで使用可能な機能を表示します。

表 3-6 アイテムの削除後に[レビュー]ペインで使用可能な機能

機能	保留中の削除	正常に削除されました
マーク	いいえ	いいえ
プレビュー	はい	いいえ
コメントの追加	いいえ	いいえ
コメントの表示	はい	はい
印刷可能バージョンの表示	はい	いいえ
元のバージョンのダウンロード	いいえ	いいえ

これらの機能は[対話]ウィンドウでも同様に動作します。削除に失敗したアイテムではこれらの機能は通常どおり動作することに注意してください。

レビューペインの概観の変更

作業方法に合うように、またアイテムをすばやく見つけるのに役立つように、レビューペインの外観をカスタマイズできます。

表 3-7 レビューペインをカスタマイズする方法

用途	操作
利用可能空間を占有するためにレビューペインを展開します。	アイテムリストの上の[レビュー画面の展開]ボタンをクリックします。
読み込みペインの位置を変更します。	次にアイテムリストの上の[表示]をクリックし、[読み込みペインのレイアウト]をポイントし、目的の位置を選択します。 メインウィンドウの下部か右側に読み込みペインを置くか、またはそれをメインウィンドウから取り外し、新しいウィンドウで内容を表示することができます。
読み込みペインのテキストのサイズを変更します。	アイテムリストの上の[表示]をクリックし、[読み込みペインのテキストのサイズ]をポイントし、目的のサイズを選択します。
アイテムリストの列を表示または非表示にします。	アイテムリストの列見出しを右クリックし、[列を選択]をポイントし、表示または非表示にする列を選択します。それから[変更を適用]をクリックします。
アイテムリストのアイテムをソートします。	列のエントリによってアイテムをソートするためにアイテムリストの列見出しをクリックします。 列見出しの矢印の方向はエントリがソートされるのは昇順かまたは降順かを示します。
日付、作成者、件名、またはポリシー処理によってアイテムをグループ化します。	アイテムリストの上の[グループ]フィールドで目的のオプションを選択します。 グループの左側にある矢印をクリックしてグループのアイテムを表示または非表示にします。
1ページに表示するアイテムの最大数を指定します。	アイテムリストの下の方の[ページサイズ]フィールドで、対象となるアイテムの数を選択します。

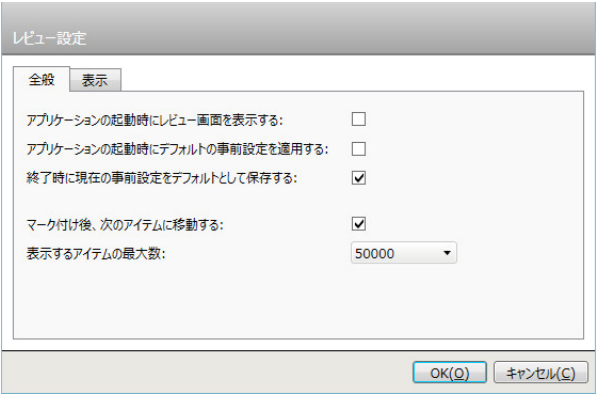
レビューペインのユーザー設定の設定

Discovery Accelerator が提供する広範な機能を使って、レビューペインの外観と操作をカスタマイズできます。

レビューペインのユーザー設定を設定する方法

- 1 レビューペインのヘッダー領域の[レビュー設定]ボタンをクリックします。

[レビュー設定]ダイアログボックスが表示されます。



2 [全般]タブで目的のオプションを選択します。オプションは次のとおりです。

アプリケーションの起動時にレビュー画面を表示する	選択すると、 Discovery Accelerator を起動したときにレビューペインに直接進むことができます。
アプリケーションの起動時にデフォルトの事前設定を適用する	選択すると、アイテム一覧のアイテムにデフォルトのフィルタのオプションが適用されます。
終了時に現在の事前設定をデフォルトとして保存	選択すると、レビューペインのためのデフォルトオプションとして現在のフィルタのオプションを保存します。
マーク付け後、次のアイテムに移動	選択すると、アイテムにマーク付けするときに、 Discovery Accelerator によってリストの次のアイテムが自動的に表示されます。
表示するアイテムの最大数	レビューペインで表示できるアイテム数の制限を設定します。

3 [表示]タブで目的のオプションを選択します。オプションは次のとおりです。

フォント	レビューペインのすべてのボタンとラベルで使うフォントを設定します。
アイテム一覧のフォント	アイテム一覧で使うフォントを設定します。
読み込みペインのフォント	読み込みペインで使うフォントを設定します。

アイテム一覧の表示の種類	<p>Discovery Accelerator が単一行または複数行のどちらのレイアウトで一覧にアイテムを表示するかを指定します。複数行レイアウトでは、アイテム情報は 2 行以上で表示されます。最初の行には送信者が表示され、2 行目にはアイテムのヘッダーの[件名]フィールドのテキストが表示されます。</p> <p>[自動]を選択すると、単一行でヘッダーを表示するには画面の領域が不足している場合に Discovery Accelerator は自動的に複数行レイアウトに切り替えます。</p>
読み込みペインの検索語をハイライト	<p>検索語のハイライトを有効または無効にします。</p>
テキスト入力にポップアップを使う	<p>レビューペインのテキスト入力フィールド ([コメント]フィールドなど) に文字を入力するときの動作を指定します。このオプションを選択すると、文字を入力する際に別のポップアップウィンドウにその文字が表示されます。これによって、新しい文字の入力時にも前の文字は表示されたままになるため、一度にすべての文字を表示できます。</p>
処理ボタンのテキストを表示しない	<p>選択すると、プレビューペインの下にある処理ボタンのテキストラベルは削除されます。</p>
読み取りペインに元の場所を表示する	<p>選択すると、現在のアイテムのアーカイブ元の場所に関する追加情報がプレビューペインの上に表示されます。</p>

4 [OK]をクリックします。

リサーチフォルダを使った作業

この章では以下の項目について説明しています。

- [リサーチフォルダについて](#)
- [リサーチフォルダの作成](#)
- [リサーチフォルダのプロパティの編集](#)
- [アイテムのリサーチフォルダへのコピー](#)
- [リサーチフォルダのアイテムのレビュー](#)
- [リサーチフォルダからのアイテムのエクスポート](#)
- [リサーチフォルダへのアクセス権の付与](#)
- [リサーチフォルダからのアイテムの削除](#)
- [リサーチフォルダのケースへの変換](#)
- [フォルダの削除](#)

リサーチフォルダについて

1 つ以上のリサーチフォルダを作成すると、他のレビューアに追加の作業をさせることなく、対象となるアイテムのみを作業できます。たとえば、インサイダー取引の疑いのある事実を追跡しているとします。大量の検索結果を他のレビューアが参照できるレビューセットに追加せずに、リサーチフォルダから検索を実行し、その結果をリサーチフォルダに格納できます。そして、通常の方法でアイテムをレビューしてマーク付けしたり、オフラインでレビューするためにそのアイテムをエクスポートしたりすることができます。

リサーチフォルダは、ケースとほぼ同じ機能を提供します。ケースと同様に、フォルダの分析を有効にすることができます。ただし、ケースとは異なり、フォルダではアイテムにリーガルホールドを適用することはできません。また、フォルダのアイテムにマーク付けするときに選択できるのは、アプリケーション全体のマークとタグのみです。

必要に応じて、他のユーザーと一緒にレビューを行えるように、他のユーザーに自分のリサーチフォルダへのアクセス権を付与することもできます。ユーザーに付与された権限によって、フォルダからアイテムをエクスポートできるかどうか、アイテムを検索して追加できるかどうか、アイテムをレビューしてマーク付けできるかどうかが決まります。

リサーチフォルダの作成

Discovery Accelerator ではフォルダを作成するためのいくつかの方法を提供しています。次に説明する方法の他にも、検索基準を定義するとき、検索結果を受け入れるとき、アイテムをレビューするときにも新しいフォルダを作成できます。

ケースに接続しないフォルダを作成するには、リサーチフォルダを作成権限が必要です。デフォルトでは、この権限はどのロールにも関連付けされていません。

リサーチフォルダを作成するには

- 1 Discovery Accelerator クライアントの[リサーチ]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、[すべてのリサーチ]をクリックします。

- 3 ウィンドウの先頭で[新規作成]をクリックします。
フォルダのプロパティペインが表示されます。

フォルダ

名前: フォルダ名

ケース: <マイリサーチ>

提出物生成の詳細

出力フォルダ: C:¥

検索の詳細

検索可能なボルトストア:

- JPSite1
- JP Vault Store

保存 キャンセル(C)

- 4 [名前]フィールドで、フォルダ名を入力します。
- 5 [ケース]フィールドで、フォルダを関連付けするケースを選択します。このケースでのアドホック検索実行権限が必要です。
または、ケースに接続しないフォルダを作成するために <マイリサーチ> を選択します。
- 6 フォルダからエクスポートするアイテムを格納する場所を指定します。
- 7 ケースに接続しないフォルダを作成することを選択したらアイテムを検索するボルトストアを選択します。ボルトストアを検索に含めるか除外するには、各ボルトストアの横のボックスを選択またはクリアします。
- 8 [保存]をクリックします。

リサーチフォルダのプロパティの編集

フォルダのプロパティを変更する必要がある場合は、次の手順に従ってプロパティを変更できます。他のユーザーのフォルダの名前を変更する場合は、そのフォルダの所有権が必要です。

リサーチフォルダのプロパティを編集する方法

- 1 [リサーチ]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、編集するフォルダをクリックします。
- 3 [プロパティ]をクリックします。
- 4 必要に応じてフォルダを編集します。
- 5 [保存]をクリックします。

アイテムのリサーチフォルダへのコピー

アイテムの詳細なリサーチを行うために、レビューセットから個人用フォルダにアイテムをコピーできます。そのアイテムをレビューしてマーク付けし、オフラインでレビューするためにアイテムをエクスポートしたり、コピーされたアイテムに関連するアイテムを検索したりすることができます。

アイテムをレビューセットから自分のフォルダにコピーするには、そのケースのアドホック検索実行権限が必要です。デフォルトでは、ケースの管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

アイテムをリサーチフォルダにコピーする方法

- 1 レビューペインで、フォルダにコピーする 1つ以上のアイテムを選択します。
複数の隣接したアイテムを選択するには、最初のアイテムをクリックし、**Shift** キーを押しながら最後のアイテムをクリックします。隣接していないアイテムを選択するには、最初のアイテムをクリックし、**Ctrl** キーを押しながら追加のアイテムをクリックします。すべてのアイテムを選択するには、**Ctrl+A** を押します。
- 2 プレビューペインで[処理]をクリックして、[コピー]をポイントします。
- 3 アイテムをコピーするコピー先フォルダを選択します。
- 4 選択したアイテムのみをコピーするか、レビューセット内のすべてのアイテムをコピーするかを選択します。
- 5 [コピー]をクリックします。

リサーチフォルダのアイテムのレビュー

フォルダ内のアイテムは、レビューセット内のアイテムをレビューする方法とまったく同じ方法でレビューできます。

フォルダのアイテムをレビューするには、そのフォルダのレビュー権限が必要です。デフォルトでは、フォルダフルコントロールロールまたはフォルダレビューロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

リサーチフォルダのアイテムをレビューする方法

- 1 **Discovery Accelerator** クライアントの[リサーチ]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、レビューするアイテムのフォルダをクリックします。
- 3 [プロパティ]タブをクリックします。
- 4 [レビューに移動]をクリックします。
- 5 レビューペインで、通常の方法でアイテムをレビューします。

p.27 の「[レビューペインについて](#)」を参照してください。

リサーチフォルダからのアイテムのエクスポート

アイテムをオフラインでレビューしたり、第三者に証拠として提示する場合は、アイテムをエクスポートする必要があります。アイテムは PST、Domino NSF データベース、HTML、MSG、ZIP などのいくつかの形式でエクスポートできます。HTML 形式でエクスポートすると、各アイテムのレビューマーク情報もエクスポートされます。

アイテムは、エクスポートしても状態が変わらないため、エクスポート後も処理を続けることができます。

ケースにリンクされないフォルダからアイテムをエクスポートするには、リサーチアイテムのエクスポート権限が必要です。フォルダがケースにリンクされている場合、そこからアイテムをエクスポートするには、そのフォルダでの提出物生成権限が必要です。

リサーチフォルダからアイテムをエクスポートするには

- 1 **Discovery Accelerator** クライアントの[リサーチ]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、一部のアイテムをエクスポートするフォルダをクリックします。
- 3 [エクスポート]タブをクリックします。
- 4 [新規作成]をクリックします。

- 5 実行に必要な詳細情報とフィルタ情報を入力します。

Discovery Accelerator は、クライアントを実行するコンピュータのフォルダではなく、Discovery Accelerator サーバーのフォルダにアイテムをエクスポートします。同じ出力フォルダとエクスポート実行名を使って複数回実行すると、Discovery Accelerator は実行するたびにレポート概略を上書きします。そのため、実行するごとに異なる名前を設定することを推奨します。

出力フォルダパスには最大 100 文字まで入力できます。

- 6 [適用]をクリックします。
- 7 特定の数のアイテムをエクスポートするために[OK]をクリックします。
- 8 処理が終了するのをしばらく待ってから、Discovery Accelerator サーバーの出力フォルダを参照し、エクスポートされたアイテムを取り込みます。

リサーチフォルダへのアクセス権の付与

他のユーザーにロールを割り当てることによって、他のユーザーに自分のフォルダへのアクセス権を付与できます。たとえば、フォルダのアイテムのレビューとマーク付けを行うユーザーは、そのフォルダのレビューロールを持っている必要があります。他のロールでは、フォルダからアイテムをエクスポートすることと、新しいアイテムを検索してフォルダに追加することができます。フルコントロールロールでは、これらのすべての権限が 1 つのロールに統合されます。

他のユーザーに自分のフォルダへのアクセス権を付与するには、そのフォルダのロールの割り当て権限が必要です。デフォルトでは、フォルダフルコントロールロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

リサーチフォルダへのアクセス権を他のユーザーに付与する方法

- 1 Discovery Accelerator クライアントの[リサーチ]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、アクセス権を付与するフォルダをクリックします。
- 3 [ロールの割り当て]タブをクリックします。
- 4 ロールを割り当てるユーザーの名前をクリックします。

ユーザーがリストに表示されなければ、ペインの先頭で[追加]をクリックし、次にそれに追加するユーザーを選択します。
- 5 右ペインで次のいずれかの操作をします。
 - 新しいロールを割り当てるために[追加]をクリックします。
 - 選択したロールを削除するために[削除]をクリックします。
- 6 [保存]をクリックします。

リサーチフォルダからのアイテムの削除

アイテムが不要になった場合、そのアイテムをリサーチフォルダから削除できます。

リサーチフォルダからアイテムを削除する方法

- 1 **Discovery Accelerator** クライアントの[リサーチ]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、削除するアイテムがあるフォルダをクリックします。
- 3 [プロパティ]タブをクリックします。
- 4 [レビューに移動]をクリックします。
- 5 レビューペインで、削除する 1 つ以上のアイテムを選択します。

隣接した複数のアイテムを選択するには、**Shift** キーを押しながら範囲内の最初と最後のアイテムをクリックします。隣接していない複数のアイテムを選択するには、**Ctrl** キーを押しながら目的のアイテムをクリックします。

- 6 プレビューペインの下にある[削除]ボタンをクリックします。
- 7 選択したアイテムのみを削除するか、フォルダ内のすべてのアイテムを削除するかを選択します。
- 8 [削除]をクリックします。

リサーチフォルダのケースへの変換

メモ: 既存のケースに添付されないリサーチフォルダのみ、ケースに変換できます。

リサーチフォルダの情報がケースに対して有効であると判断した場合、フォルダをケースに変換できます。この処理によって、フォルダ内のすべてのアイテムにリーガルホールドが自動的に適用されます。

新しく作成されたケースは、**Discovery Accelerator 10.0.1** 以降を使用してソースリサーチフォルダを作成した場合、データのエンコードと暗号化に関する米国政府の連邦情報処理標準 (FIPS) に準拠しています。ただし、FIPS に準拠していない古いバージョンの **Discovery Accelerator** でフォルダを作成し、**Discovery Accelerator 10.0.1** 以降でケースに変換しても、ケースは FIPS 準拠にはなりません。

フォルダをケースに変換するには、リサーチをケースに移行権限が必要です。デフォルトでは、ディスカバリシステム管理者ロールを持つユーザーのみにこの権限が割り当てられます。

リサーチフォルダをケースに変換する方法

- 1 **Discovery Accelerator** クライアントの[リサーチ]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、ケースに変換するフォルダをクリックします。

- 3 [プロパティ]タブをクリックします。
- 4 [ケースに移行]をクリックします。
- 5 続行する場合は、[ケースに移行]をクリックします。

フォルダの削除

フォルダが不要になった場合、そのフォルダを削除できます。

フォルダの分析を有効にした場合は、分析を個別に無効にする必要があります。そうしない場合、関連する分析データは **SQL** サーバーに残されます。ケースにリンクされるフォルダは、ケースを削除する前に分析に対して無効にする必要があります。

フォルダを削除するには、フォルダ削除権限が必要です。

フォルダを削除する方法

- 1 **Discovery Accelerator** クライアントの[リサーチ]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、[すべてのリサーチ]をクリックします。
- 3 削除する 1 つ以上のフォルダを選択します。

複数の隣接したフォルダを選択するには、最初のフォルダをクリックし、**Shift** キーを押しながら最後のフォルダをクリックします。隣接していないフォルダを選択するには、最初のフォルダをクリックし、**Ctrl** キーを押しながら追加のフォルダをクリックします。すべてのフォルダを選択するには、**Ctrl+A** を押します。

- 4 [削除]をクリックします。
- 5 続行する場合は、[フォルダの削除]をクリックします。

アイテムのエクスポートと提出物生成

この章では以下の項目について説明しています。

- アイテムのエクスポートと提出物生成について
- エクスポートと提出物生成の違い
- エクスポート実行または提出物生成実行
- 同時エクスポート実行数または提出物生成実行数の制限について
- エクスポート ID または通し番号を **Microsoft Outlook** で表示

アイテムのエクスポートと提出物生成について

アイテムをオフラインでレビューしたり、第三者に証拠として提示する場合は、アイテムを **Discovery Accelerator** からエクスポートする必要があります。**Discovery Accelerator** は内容のエクスポート用に多数のファイル形式をサポートしています。すべての内容を、元の形式で、または内容から作成される **HTML** としてエクスポートできます。

特定の種類のコンテンツのエクスポートの制限事項

特定の種類のコンテンツを **HTML** 形式でエクスポートする際には、次の制限事項に注意します。

- 電子メールメッセージに埋め込まれたイメージは、これらのメッセージの **HTML** エクスポートでは正しく表示されない場合があります。最適な結果を得るために、埋め込みイメージが含まれるメッセージを元の形式でエクスポートするか、単一の個人用フォルダ (.pst) ファイルにカプセル化することをお勧めします。
- **Skype for Business** の通信には、ユーザーが会議中に共有するホワイトボードと投票を含めることができます。この会議の 2 つの機能のコンテンツは、**Enterprise Vault**

がインデックスを作成できない Microsoft 社独自の XML フォーマットで保存されます。その結果、Discovery Accelerator レビューセットからホワイトボードの HTML レンダリングをエクスポートすると、その内容は空白になります。同様に、投票の HTML エクスポートにも、投票の質問に対する回答は含まれませんが、質問自体は含まれます。

エクスポートと提出物生成の違い

アイテムのエクスポートは、次の点がアイテムの提出物生成と異なります。

- Discovery Accelerator は生成されたアイテムをロックしますが、エクスポートされたアイテムはロックしません。
- アイテムをエクスポートした後、割り当て済みのマークや状態を変更できます。ただし、アイテムを生成した後に、マーク付けしたり、または状態を変更することはできません (ただし、引き続きレビューペインに表示できます)。同じアイテムが別のケースでキャプチャされている場合、そのケースでの状態には影響がありません。
- 個々のアイテムは複数回エクスポートできますが、アイテムが生成できるのは 1 回のみです。

エクスポートは、オフラインでレビューするための機能で、Discovery Accelerator からアイテムをコピーするための正式な方法ではありません。

レビュー処理の終了まで提出物生成の実行を待つ必要がありません。レビューを終えたアイテムの提出物はいつでも生成できます。それ以降のアイテムの提出物は、レビューした後で生成を実行できます。同じ出力フォルダと生成実行名を使って複数回実行すると、Discovery Accelerator は実行するたびにレポート概略を上書きします。

誤って削除するなど、提出物生成を実行した後で提出物を生成したファイルに問題が生じた場合は、アイテムの提出物を再生成できます。ただし、正常にアイテムの提出物を生成した場合は、処理を取り消すことはできません。

エクスポート実行または提出物生成実行

アイテムをオフラインでレビューしたり、第三者に証拠として提示する場合は、アイテムを Discovery Accelerator からエクスポートする必要があります。出力形式は PST、Domino NSF データベース、HTML、MSG、ZIP などの複数の形式から選択できます。アイテム自身およびその処理状態の履歴の両方をエクスポートする場合は HTML にエクスポートします。この履歴は、アイテムのプレビューまたは印刷可能バージョンを表示したレビューア、アイテムの元のバージョンをダウンロードしたレビューア、マーク付けしたレビューア、およびレビューアがそれらを行った日時を識別します。

選択アイテムをエクスポートすることに加えて、Discovery Accelerator はまた HTML 形式、平文形式と XML 形式のレポートを出力します。3 つのすべてのレポートには、エク

サポートしたアイテムが一覧表示されます。さらに、HTML レポートではそれらのアイテムへのハイパーリンクが提供されます。

アイテムの提出物を生成またはエクスポートするには、提出物生成権限が必要です。

エクスポートまたは提出物生成を実行する方法

- 1 Discovery Accelerator クライアントの[ケース]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、アイテムをエクスポートするケースをクリックします。

Discovery Accelerator によって大量のケースが一覧表示される場合は、ペインの上部のフィールドを使って一覧をフィルタ処理できます。ケースを名前でフィルタ処理するだけでなく、それらと関連付けされるリサーチフォルダを一覧表示するかどうかを選択できます。

- 3 [エクスポート/提出物生成]タブをクリックします。
- 4 ウィンドウの先頭で[新規作成]をクリックします。
[エクスポートの詳細]ペインが表示されます。

エクスポートの詳細

名前:

出力フォルダ:

種類: ☐ 提出物生成 ☒ エクスポート

アイテムの選択

アイテム ID:

元のソース:

☒ Microsoft Exchange ☐ インスタントメッセージ ☐ SMTP
☐ Domino ☐ Bloomberg ☐ 未指定/v.6 より前のアイテム
☐ ファイルシステム ☐ FAX ☐ SharePoint
☐ IMAP (インターネットメール) ☐ ソーシャル

ポリシーの処理:

☒ 含める ☒ 除外する ☒ 処理なし ☒ 指定しない

アイテム:

検索:

マーク:

マーク付けの最終実行者:

現在の状態:

ポリシー:

オプション

重複アイテムの除外:

☐

ジャーナル受信者をレポートに含める:

☐

名前を付けてエクスポート:

☒ 元の種類 ☐ HTML ☐ Zip

アイテムのエクスポート先:

☐ MSG/EML ☒ PST

PST パスワード:

PST サイズ (MB):

適用

キャンセル

- 5 [名前]フィールドで、実行の名前を入力します。
- ここに指定する名前は **Discovery Accelerator** が実行からの出力を格納するサブフォルダの名前になります。
- 6 [出力フォルダ]フィールドで、実行からの出力を格納する **Discovery Accelerator** サーバーのフォルダへのパスを入力します。
- フォルダパスには最大 100 文字まで入力できます。
- Discovery Accelerator** は、指名したフォルダのサブフォルダの実行からの出力を保存します。
- 7 選択したアイテムの提出物を生成するか、エクスポートするかを選択します。
- [提出物生成]を選択した場合、[提出物生成の詳細]フィールドが表示され、提出物の ID 接頭辞と開始シーケンス番号を設定できます。これはケースの作成時に設定しますが、ここで変更できます。接頭辞には 10 文字まで含めることができますが、スペースや ¥ / * ? | < > などの記号を含めることはできません。
- 8 [アイテムの選択]フィールドで、エクスポートするアイテムを選択します。
- オプションは次のとおりです。

アイテム ID	エクスポートする各アイテムの ID を指定します。アイテムの ID を指定するには、レビューペインのアイテムを表示します。
元のソース	Microsoft Exchange または Domino のような種類によってアイテムを選択します。
ポリシーの処理	ポリシー管理ソフトウェアがタグ付けに使ったポリシーの処理によってアイテムを選択します。 この処理は次のいずれかです。[含める] (キャプチャを要求または提案する)、[除外] (キャプチャを除外するか、キャプチャしないことを推進する)、[処理なし] (アイテムは通常のランダムサンプリングの対象である)。
アイテム	レビューセット内のすべてのアイテムをエクスポートするか、割り当てられているアイテムのみをエクスポートするかを指定します。
検索	特定の検索によりキャプチャされたアイテムを選択します。
マーク	レビューアがアイテムに割り当てたマークを基準にアイテムを選択します。
マーク付けの最終実行者	アイテム最後にレビューマークを割り当てたユーザーを基準にアイテムを選択します。

現在の状態	アイテムの状態([保留]、[問題あり]、[レビュー済み]など)を基準にアイテムを選択します。
ポリシー	ポリシー管理ソフトウェアがタグ付けに使った特定のポリシーによってアイテムを選択します。

- 9 [オプション]ボックスで、必要に応じて[重複アイテムの除外]または[類似アイテムの除外]を選択します。**Discovery Accelerator** は、内容がまったく同じであるとき、アイテムが重複であると見なします。**Discovery Accelerator** が類似と見なすアイテムは、メタデータのプロパティ(作成者の表示名、件名と添付ファイルの数など)が同じです。

重複アイテムを除外するオプションは、分析に対して有効なケースの場合にのみ利用可能です。類似アイテムを除外するオプションは、分析に対して有効でないケースの場合にのみ利用可能です。

Discovery Accelerator での重複排除機能について詳しくはホワイトペーパー『[Accelerator Deduplication](#)』を参照してください。

- 10 **Exchange** または **SMTP ジャーナルアイテムのジャーナルエンベロープ (P1)** の受信者情報をエクスポートレポートに含める場合は、[ジャーナル受信者をレポートに含める]を選択します。これには、受信者が[宛先]、[CC]、[BCC]のいずれのフィールドで指定されているかに関係なく、各アイテムのすべての受信者がリストされます。

Discovery Accelerator では、**Domino** ジャーナルアイテムの受信者情報は含まれません。

- 11 アイテムを元の形式でエクスポートするか、**HTML** としてエクスポートするか、**ZIP** ファイルで収集するかを選択します。
- [元の種類]をクリックすると **Microsoft Exchange** アイテムは個別の **MSG** ファイルとして出力し、**SMTP** アイテムは個別の **EML** ファイルとして出力するか、または個人用の単一フォルダの(.pst)ファイルにすべてカプセル化できます。
[PST]をクリックすると、**Discovery Accelerator** にファイルのパスワードと最大ロールオーバーサイズを設定できる追加オプションが複数表示されます。パスワードは英数字のみを含むことができます。各 **PST** ファイルのデフォルトサイズは **600 MB** です。**20 GB** を超えることはできません。
 - [HTML]をクリックすると、**Discovery Accelerator** にコメントや処理状態の履歴を含めることを選択できる追加オプションが複数表示されます。この履歴は、各アイテムのプレビューまたは印刷可能バージョンを表示したレビューア、アイテムの元のバージョンをダウンロードしたレビューア、マーク付けしたレビューア、およびレビューアがそれらを行った日時を識別します。
 - [Zip]をクリックすると、各 **ZIP** ファイルの最大ロールオーバーサイズを設定できます。デフォルトは **1024 MB (1 GB)** です。

ZIP ファイルにすべての種類のアイテムをエクスポートできます。ただし、Domino アイテムをエクスポートする場合は最初に **Discovery Accelerator** でアイテムを Domino NSF データベースに収集してから ZIP ファイルに追加します。

- 12 [エクスポートするアイテムの数]フィールドでは、必要なアイテムの数を入力します。**Discovery Accelerator** が最も古いアイテムをエクスポートすることに注意してください。たとえば、100 のアイテムをエクスポートすることを選択した場合、**Discovery Accelerator** は選択したオプションと一致する 100 の最も古いアイテムをエクスポートします。

重複アイテムや類似アイテムを除外することを選択したら、それらのアイテムはエクスポートされるアイテムの数に加算されません。**Discovery Accelerator** は指定の数の重複のないアイテムのみをエクスポートします。

- 13 ファイルシステムアイテムまたは Domino アイテムをエクスポートするときに、変更または誤って削除できないようにそれらのアイテムを読み取り専用にする場合は、[読み取り専用]を選択します。
- 14 [適用]をクリックします。
- 15 エクスポートが終了したら、**Discovery Accelerator** サーバーの出力フォルダを開いて、エクスポートされたアイテムを取り込みます。また、このフォルダはエクスポートしたアイテムをリストするレポートを含んでいます。

同時エクスポート実行数または提出物生成実行数の制限について

デフォルトでは、4 つまでの実行を同時に行うことができます。追加の実行を行おうとした場合、**Discovery Accelerator** はアクティブな実行のいくつかを完了するまでキューにそれらを保持します。それからそれらを開始した順序で追加の実行を行います。実行の最大数がすでに進行中の間、優先度が高い実行を行う必要があれば、開始できるように **Discovery Accelerator** の管理者にそれらの実行の 1 つを停止するように頼むことができます。

Discovery Accelerator 管理者は次の[エクスポート/提出物生成]設定オプションを設定することによって行うことが可能である同時実行の最大数を変更できます。

- 提出物生成実行ごとの提出物生成スレッドの数
- カスタマーごとの提出物生成スレッドの総数

これらの設定オプションにアクセスするには、**Discovery Accelerator** クライアントの[設定]タブをクリックし、次に[設定値]タブをクリックします。行うことができる同時実行の最大数は[カスタマーごとの提出物生成スレッドの総数]を[提出物生成実行ごとの低提出物生成スレッドの数]で割ったものです。

エクスポート ID または通し番号を Microsoft Outlook で表示

エクスポートまたは生成された個人用フォルダ(.pst)ファイルを Microsoft Outlook で表示する場合に、Discovery Accelerator が各アイテムに割り当てたエクスポート ID または通し番号が表示されると便利な場合があります。Outlook の表示にカスタムの列を追加すると、この ID を表示できます。

エクスポート ID または通し番号を Microsoft Outlook で表示する方法

- 1 Outlook でエクスポートされた .pst ファイルを開きます。
- 2 Outlook の列見出しを右クリックし、[フィールドの選択]をクリックします。
- 3 [新規作成]をクリックします。
- 4 [新しいフィールド]ダイアログボックスの[名前]フィールドに「通し番号」を入力して、[OK]をクリックします。
- 5 [フィールドの選択]ダイアログボックスを閉じます。
- 6 Outlook の列見出しを右クリックし、[現在のビューの編集]をクリックします。
- 7 [フィールド]をクリックして、[対象となるフィールドグループ]の一覧を選択し、[ユーザー定義フィールド]を選択します。
- 8 表示されたフィールドの一覧に通し番号を追加し、[OK]を 2 回クリックしてダイアログボックスを閉じます。

レポートの作成と表示

この章では以下の項目について説明しています。

- [Discovery Accelerator レポートについて](#)
- [Discovery Accelerator レポートの作成](#)
- [利用可能な Discovery Accelerator のレポート](#)
- [既存のレポートの表示](#)
- [レポートの削除](#)
- [OData Web サービスを使った Discovery Accelerator データセットの表示について](#)

Discovery Accelerator レポートについて

Discovery Accelerator は、ケースの詳細についてレポートするためと、開示要求のコンプライアンスの有効性を確認するための広範な機能を提供します。

レポートを印刷するほかに、XML、カンマ区切り値 (CSV)、Acrobat (PDF)、Web アーカイブ (MHTML)、Excel、TIFF を含む多数の形式でレポートをエクスポートできます。

Discovery Accelerator レポートの作成

新しいレポートを生成するには、レポート表示権限が必要です。デフォルトで、ケースロールのほとんどのユーザーにこの権限があります。

Discovery Accelerator レポートを作成する方法

- 1 Discovery Accelerator クライアントの[レポート]タブをクリックします。
- 2 ウィンドウの左上で[新規作成]をクリックします。

- 3 [種類]フィールドで、作成するレポートの種類を選択します。
p.82 の「利用可能な Discovery Accelerator のレポート」を参照してください。
場合によっては、レポートの種類を選択すると、追加のフィールドが表示され、レポートの範囲を定義できます。
- 4 [名前]フィールドで、50 文字までを含む重複しない名前を入力します。
- 5 必要であれば、250 文字までを含む省略可能な説明を入力します。
- 6 残りのレポートのパラメータを設定し、[適用]をクリックします。
- 7 Discovery Accelerator がレポートを生成したら、それを表示するために左ペインのレポート名をダブルクリックします。

利用可能な Discovery Accelerator のレポート

表 6-1 では、Discovery Accelerator に用意されているレポートについて説明します。

表 6-1 利用可能な Discovery Accelerator のレポート

レポート名	表示内容
[アーカイブソース]レポート	選択したケース内の Discovery Accelerator 検索を行なった Enterprise Vault アーカイブ。 p.83 の「[アーカイブソース]レポート」を参照してください。
[ケースの履歴]レポート	ケースにアクセスするユーザー、ユーザーが行なった検索、レビュー、提出物生成実行を含む選択した Discovery Accelerator のケースの情報。このレポートには、ユーザーが Enterprise Vault アーカイブから削除したアイテムに関する情報も示されます。 p.84 の「[ケースの履歴]レポート」を参照してください。
[エクスポート実行の重複]レポート	エクスポート実行を行なったときに重複排除を有効にしていたために Discovery Accelerator によって検出された重複アイテム。 p.86 の「[エクスポート実行の重複]レポート」を参照してください。
[アイテムの詳細]レポート	レビューまたは削除の各段階で選択されたケースのアイテム。 p.87 の「[アイテムの詳細]レポート」を参照してください。
[リーガルホールド]レポート	Enterprise Vault アーカイブから削除しないように Discovery Accelerator が保存した、選択されているケースのアイテム。 p.87 の「[リーガルホールド]レポート」を参照してください。

レポート名	表示内容
[提出物生成実行]レポート	選択したケースの各提出物生成実行とエクスポート実行のアイテム。 p.89 の「 [提出物生成実行]レポート 」を参照してください。
[提出物生成実行の重複]レポート	提出物生成実行を行なったときに重複排除を有効にしていたために Discovery Accelerator によって検出された重複アイテム。 p.90 の「 [提出物生成実行の重複]レポート 」を参照してください。
[提出物生成]レポート	選択したケースに行なった提出物生成実行。 p.90 の「 [提出物生成]レポート 」を参照してください。
[検索]レポート	選択したケースの有効な受け入れ済みの検索。 p.91 の「 [検索]レポート 」を参照してください。
[セキュリティ]レポート	選択したケースへのアクセスがあるユーザーとユーザーに関連付けられたロールと権限。 p.93 の「 [セキュリティ]レポート 」を参照してください。

[アーカイブソース]レポート

[アーカイブソース]レポートは、選択したケース内で **Discovery Accelerator** の検索を行なった **Enterprise Vault** のアーカイブの情報を提供します。

このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 6-2 [アーカイブソース]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
アーカイブ ID	Enterprise Vault がアーカイブに割り当てた識別子。
アーカイブ名	Enterprise Vault アーカイブの名前。
ボルトストア	アーカイブがあるボルトストア。
アーカイブのヒット	検索が生成したヒット数。
アーカイブの状態	アーカイブが利用可能かどうか。
アーカイブの最も早い日付	アーカイブのアイテムが送信され、受信された最も古い日付。
アーカイブの最新の日付	アーカイブのアイテムが送信され、受信された最新の日付。

[ケースの履歴]レポート

[ケースの履歴]レポートは、ケースにアクセスするユーザー、ユーザーが行った検索、レビュー、提出物生成実行を含む選択した **Discovery Accelerator** のケースの情報を提供します。

[ケースの履歴]レポートは、ケースにアクセスするユーザー、ユーザーが行った検索、レビュー、提出物生成実行を含む選択した **Discovery Accelerator** のケースの情報を提供します。このレポートには、ユーザーが **Enterprise Vault** アーカイブから削除したアイテムに関する情報も示されます。

このレポートには次のフィールドがあります。

表 6-3 [ケースの履歴]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
ケース	
ケース名/ケース番号	ケースの作成者が割り当てた名前や Discovery Accelerator が割り当てた識別番号。
ケースの作成日	ケースが作成された日付。
リーガルホールドの状態	ユーザーが Enterprise Vault アーカイブから削除しないようにケースレビューセットのアイテムが保存中であるかどうか。
ケースのアイテムの総数	ケースレビューセットのアイテムの数。
生成されるアイテム	オフラインレビューのために生成したアイテムの数。
権限がある削除の要求	アーカイブからの削除の各段階にあるアイテムの数。
ロールの名前/ユーザー名	このケースにアクセス可能なユーザーと、ケース内でのロール。
検索	
日付	検索を実行した日付。
検索名	検索の作成者が割り当てた名前。
検索 ID	Discovery Accelerator が検索に割り当てた識別番号。
アーカイブの数	Discovery Accelerator が検索したアーカイブの数。
検索の状態	割合で表示される検索の進捗状況。
ヒット数	検索が生成したヒット数。
重複のないヒット数	ケースの他の検索は取り込まず、この検索が取り込んだアイテムの数。

フィールド	表示内容
レビュー	
未レビューのアイテム	レビューがマーク付けしていないケースレビューセットのアイテムの数。
レビューされたアイテム	レビューがマーク付けしたケースレビューセットのアイテムの数。
問題があるアイテム	問題がある状態のケースレビューセットのアイテムの数。
保留中のアイテム	保留の状態のケースレビューセットのアイテムの数。
割り当てられているアイテム	マーキングのためレビューに現在割り当てられているケースレビューセットのアイテムの数。
未割り当てのアイテム	マーキングのためレビューに現在割り当てられていないケースレビューセットのアイテムの数。
提出物生成の履歴/エクスポートの履歴	
日付	提出物生成またはエクスポートが完了した日付。
提出物生成の名前/エクスポート名	提出物生成実行またはエクスポート実行の名前。
提出物生成 ID/エクスポート ID	Discovery Accelerator が提出物生成実行またはエクスポート実行に割り当てた識別番号。
提出物生成/エクスポートステータス	割合で表示される提出物生成実行またはエクスポート実行の進捗状況。
開始 ID/終了 ID	提出物生成実行の最初と最後のアイテムの識別番号。-1 は[なし]を意味します。
提出物生成済みアイテムの数/エクスポート済みアイテムの数	提出物生成実行のアイテムの数。-1 は[なし]を意味します。
検索名	提出物生成のためのアイテムを選択するために使った検索の名前。
マーク	提出物生成のためのアイテムを選択するために使ったレビューマークの名前。
場所	提出物生成されたアイテムまたはエクスポートされたアイテムを検索できるファイルシステムのフォルダへのパス。
権限がある削除	
削除されたアイテム	アーカイブから削除されたケースのアイテムの数。

フィールド	表示内容
削除が失敗したアイテム	アーカイブからの削除に失敗したケースのアイテムの数。
削除が保留中のアイテム	アーカイブからの削除のキューに登録されたケースのアイテムの数。

[エクスポート実行の重複]レポート

[エクスポート実行の重複]レポートには、エクスポート実行を行なったときに重複排除を有効にしていたために **Discovery Accelerator** によって検出された重複アイテムが一覧表示されます。

このレポートには次のフィールドがあります。

表 6-4 [エクスポート実行の重複]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
DAID	Discovery Accelerator が重複アイテムに割り当てた識別番号。
エクスポート済み DAID の重複	このアイテムが重複するアイテムの識別番号。
SSID	重複アイテムを含んでいる保存セット (.DVS) ファイルの識別子。
アーカイブ ID	重複アイテムが格納されるアーカイブに Enterprise Vault が割り当てた識別子。
アーカイブ名	Enterprise Vault アーカイブの名前。
場所	アイテムのアーカイブ元であるユーザーのメールボックス内の場所。
最新レビューア	この重複アイテムが割り当てられているレビューア。
最新コメント	レビューアが重複アイテムに割り当てた最後のコメント。
メールの日付	重複アイテムを送信した日付。
作成者	重複アイテムの作成者。
受信者 (切り捨て済み)	重複アイテムの受信者。これは最大 256 文字までのリストなので、完全なリストではないことがあります。
件名	重複アイテムの件名。
検索	この重複アイテムと一致する検索。

[アイテムの詳細]レポート

[アイテムの詳細]レポートは選択したケースのアイテムの情報を提供します。

このレポートには次のフィールドがあります。

表 6-5 [アイテムの詳細]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
DAID	Discovery Accelerator がアイテムに割り当てた識別番号。
SSID	アイテムを含んでいる保存セット (.DVS) ファイルの識別子。
アーカイブ ID	Enterprise Vault がアーカイブに割り当てた識別子。
アーカイブ名	Enterprise Vault アーカイブの名前。
送信 / 受信日	アイテムが送信されたか、または受信された日付。
作成者	アイテムを送信した人の電子メールアドレス。
受信者 (切り捨て済み)	アイテムの受信者。これは最大 256 文字までのリストなので、完全なリストではないことがあります。
件名	アイテムの件名。
最新マーク	レビューアがアイテムに割り当てた最後のマーク。
最新コメント	レビューアがアイテムに割り当てた最後のコメント。
アイテムの削除の状態	アーカイブからのアイテムの削除の状態: [成功]、[保留]、[失敗]。
削除者	削除要求を送信した Discovery Accelerator ユーザーの名前。

[リーガルホールド]レポート

[リーガルホールド]レポートは、**Enterprise Vault** アーカイブから削除しないように **Discovery Accelerator** が保存した、選択されているケースのアイテムの概略を提供します。レポートはケースの詳細とケースで実行した検索の詳細を最初に示します。次に、検索の結果に保存されたアイテムの詳細を示します。

このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 6-6 [リーガルホールド]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
ケース	

フィールド	表示内容
アイテムの総数	ケースレビューセットのアイテムの数。
リーガルホールドの状態	ユーザーが Enterprise Vault アーカイブから削除しないようにケースレビューセットのアイテムが保存中であるかどうか。
リーガルホールドグループ ID	ケースのリーガルホールドの ID。
理由	ケースのアイテムを保留している理由。
リーガルホールドの状態	リーガルホールドの進捗状況。
保存アイテムの総数	Discovery Accelerator が保留しているアイテムの数。
保存エラーの総数	Discovery Accelerator が保留できないアイテムの数。
削除アイテムの総数	Discovery Accelerator が保留する前に Enterprise Vault アーカイブから削除されたアイテムの数。
保存アイテムのアーカイブの総数	アイテムを保留しているアーカイブの数。
検索	
検索 ID	Discovery Accelerator が検索に割り当てた識別番号。
検索名	検索の作成者が割り当てた名前。
検索日	検索を実行した日付。
ヒットの総数	検索基準に一致するアイテムの合計。
重複のないアイテムの総数	ケースの他の検索は取り込まず、この検索が取り込んだアイテムの数。
重複のない保存アイテムの総数	Discovery Accelerator が保留している重複のないアイテムの数。
アーカイブの総数	検索がクエリーした Enterprise Vault アーカイブの数。
アーカイブの詳細	
アーカイブ ID	Enterprise Vault がアーカイブに割り当てた識別子。
アーカイブ名	Enterprise Vault アーカイブの名前。
ボルトストア	アーカイブがあるボルトストア。
保存アイテム数	アーカイブの保留中のアイテムの数。
最も古い日付	保留中のアイテムが送信され、受信された最も古い日付。

フィールド	表示内容
最新の日付	保留中のアイテムが送信され、受信された最新の日付。

[提出物生成実行]レポート

[提出物生成実行]レポートは、選択したケースの各提出物生成実行のアイテムの情報を提供します。

このレポートには次のフィールドがあります。

表 6-7 [提出物生成実行]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
通し ID / エクスポート ID	アイテムを識別する通し番号またはエクスポート番号。
DAID	Discovery Accelerator がアイテムに割り当てた識別番号。
SSID	アイテムを含んでいる保存セット (.DVS) ファイルの識別子。
状態	このアイテムの提出物生成がどの程度進捗したか。
アーカイブ ID	アイテムが格納されるアーカイブに Enterprise Vault が割り当てた識別子。
アーカイブ名	Enterprise Vault アーカイブの名前。
場所	アイテムのアーカイブ元であるユーザーのメールボックス内の場所。
重複アイテムまたは類似アイテムの数	他のアイテムと重複するか、または類似するため Discovery Accelerator が提出物生成実行から除外したアイテムの数。
最新レビューア	このアイテムが割り当てられているレビューア。
最新コメント	レビューアがアイテムに割り当てた最後のコメント。
メールの日付	アイテムを送信した日付。
作成者	アイテムの作成者。
受信者 (切り捨て済み)	アイテムの受信者。これは最大 256 文字までのリストなので、完全なリストではないことがあります。
件名	アイテムの件名。
検索	このアイテムと一致する検索。

[提出物生成実行の重複]レポート

[提出物生成実行の重複]レポートには、提出物生成実行を行なったときに重複排除を有効にしていたために **Discovery Accelerator** によって検出された重複アイテムが一覧表示されます。

このレポートには次のフィールドがあります。

表 6-8 [提出物生成実行の重複]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
DAID	Discovery Accelerator が重複アイテムに割り当てた識別番号。
エクスポート済み DAID の重複	このアイテムが重複するアイテムの識別番号。
SSID	重複アイテムを含んでいる保存セット (.DVS) ファイルの識別子。
アーカイブ ID	重複アイテムが格納されるアーカイブに Enterprise Vault が割り当てた識別子。
アーカイブ名	Enterprise Vault アーカイブの名前。
場所	アイテムのアーカイブ元であるユーザーのメールボックス内の場所。
最新レビューア	この重複アイテムが割り当てられているレビューア。
最新コメント	レビューアが重複アイテムに割り当てた最後のコメント。
メールの日付	重複アイテムを送信した日付。
作成者	重複アイテムの作成者。
受信者 (切り捨て済み)	重複アイテムの受信者。これは最大 256 文字までのリストなので、完全なリストではないことがあります。
件名	重複アイテムの件名。
検索	この重複アイテムと一致する検索。

[提出物生成]レポート

[提出物生成]レポートは、選択したケースに行なった提出物生成実行の情報を提供します。

このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 6-9 [提出物生成]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
日付	提出物生成が完了した日時。
名前	提出物生成実行のイニシエータが割り当てた名前。
提出物生成 ID	Discovery Accelerator が提出物生成に割り当てた識別番号。
種類	提出物生成実行またはエクスポート実行のどちらか。
開始 ID/終了 ID	提出物生成の最初と最後のアイテムの識別番号。-1 は[なし]を意味します。
提出物生成済みアイテムの数	提出物生成実行またはエクスポート実行のアイテムの数。
検索名	提出物生成またはエクスポートのためのアイテムを選択するために使った検索の名前。
マーク	提出物生成またはエクスポートのためのアイテムを選択するために使ったレビューマークの名前。
アイテムを除外	提出物生成実行またはエクスポート実行の基準を定義したときに選択した重複アイテムまたは類似するアイテムを除外するオプション。
重複アイテムまたは類似アイテムの数	提出物生成実行またはエクスポート実行で、他のアイテムと重複するか、または類似するアイテムの数。
ジャーナル受信者をレポートに含める	ジャーナルアイテムのジャーナルエンベロープの受信者情報を含めるかどうか。
提出物生成の場所	提出物生成されたアイテムまたはエクスポートされたアイテムを検索できるファイルシステムのフォルダへのパス。

[検索]レポート

[検索]レポートは、選択したケースの有効な受け入れ済みの検索の情報を提供します。このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 6-10 [検索]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
日付	検索を実行した日時。
検索名	検索の作成者が割り当てた名前。検索に使われる基準を表示するには名前をクリックします。

フィールド	表示内容
検索 ID	Discovery Accelerator が検索に割り当てた識別番号。
状態	検索の状態 ([同意の保留]、[進行中]、[同意済み]、[失敗]、[完了]など)。
アーカイブの数	Discovery Accelerator が検索したアーカイブの数。
検索の状態	割合で表示される検索の進捗状況。
ヒット数	検索基準に一致するアイテム数。
重複のないヒット数	ケースの他の検索が取り込まなかった検索済みアイテムの数。
送信者	検索を送信した Discovery Accelerator ユーザーの名前。

次の表に[検索基準]フィールドを示します。

表 6-11 [検索基準]フィールド

フィールド	表示内容
日付範囲	検索基準と一致するようにアイテムが送信されるか、または受信されなければならない日付範囲。
宛先	アイテムの受信者。
差出人	アイテムの送信者。
件名	アイテムの件名で検索する語句。
内容	アイテムのメッセージ本文で検索する語句。
添付ファイルの数	アイテムの添付ファイルの必須の数。
添付ファイルの種類	検索対象となる添付ファイルの種類を表す拡張子。
メッセージサイズ	検索するアイテムのサイズ。
メッセージの種類	検索するアイテムの種類。
保持カテゴリ	Enterprise Vault がアイテムに割り当てた選択済みの保持カテゴリ。
ポリシーの種類	他社のポリシー管理ソフトウェアがアイテムをタグ付けした選択済みのポリシー形式 ([含める]、[除外]、[カテゴリ])。
ポリシー	ポリシー管理ソフトウェアがアイテムにタグを付けるのに使った特定のポリシー。

フィールド	表示内容
ケースでポリシーをフィルタ処理	ケースによってソートするために検索で適用されたフィルタ。

[セキュリティ]レポート

[セキュリティ]レポートは、選択したケースへのアクセスがあるユーザーとユーザーに関連付けされたロールと権限の情報を提供します。

このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 6-12 [セキュリティ]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
セキュリティの詳細	
ロール	Discovery Accelerator のセキュリティのロール。
ユーザー名/グループ名	ロールを割り当てたユーザーとグループ。
許可権限	指定したロールを持つ Discovery Accelerator ユーザーとグループに割り当てた権限。
拒否権限	指定したロールを持つユーザーとグループが所有できない権限。ユーザーとグループが他に占有するロールでこの権限が付与されていても所有できません。
ユーザー/グループのロール	
ユーザー名/グループ名	Discovery Accelerator ユーザーまたはグループの名前。
ユーザー/グループのロール	ユーザーまたはグループを割り当てたロール。
有効な権限	
ユーザー名/グループ名	Discovery Accelerator ユーザーまたはグループの名前。
ユーザー/グループの有効な権限	Discovery Accelerator ユーザーまたはグループが所有する権限。

既存のレポートの表示

Discovery Accelerator はレポートの内容を表示し、印刷し、Excel、Acrobat (PDF)、XML、カンマ区切り値 (CSV) のような形式でエクスポートすることを容易にします。レポートは、その作成時点におけるデータのスナップショットです。レポートを後で表示してもレポート内のデータは更新されないで、最新のデータを表示する場合は新しいレポートを作成する必要があります。

既存のレポートを表示するには、レポート表示権限が必要です。デフォルトで、ケースロールのほとんどのユーザーにこの権限があります。

既存のレポートを表示するには

- 1 **Discovery Accelerator** クライアントの[レポート]タブをクリックします。
- 2 中央のペインで、表示するレポートをクリックします。**Discovery Accelerator** は右側にある[詳細]タブで選択したレポートの情報を提供します。

左ペインのオプションを選択することによって、レポートのリストをフィルタ処理できます。代わりに、中央のペインの先頭の[レポートの検索]フィールドで、レポートの名前や説明で検索するキーワードを入力します。
- 3 レポートの内容を表示するために[プレビュー]タブをクリックします。
- 4 次の 1 つ以上の操作をします。
 - レポート内で、特定のページに移動するか、特定の語を見つけるか、または拡大のレベルを調整するには、プレビューペインの先頭でナビゲーションコントロールをクリックします。
 - レポートをエクスポートするには、対象となる形式を選択し、[エクスポート]をクリックします。**Discovery Accelerator** はレポートファイルのための場所を選択するためにプロンプトを表示します。
 - レポートのコンテンツを更新するには、[更新]をクリックします。
 - レポートを印刷するには、[印刷]をクリックし、次に印刷のオプションを選択します。

レポートの削除

レポートが不要になった場合、そのレポートを **Discovery Accelerator** から削除できます。

レポートを削除するには、レポート表示権限が必要です。デフォルトで、ケースロールのほとんどのユーザーにこの権限があります。

注意: 誤って削除したレポートをリカバリできません。

レポートを削除する方法

- 1 **Discovery Accelerator** クライアントの[レポート]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、削除するレポートをクリックします。
- 3 ウィンドウの左上で[レポートの削除]をクリックします。
- 4 [はい]をクリックして、レポートを削除することを確定します。

OData Web サービスを使った Discovery Accelerator データセットの表示について

Discovery Accelerator クライアントでレポートを作成したり表示したりするだけでなく、OData (Open Data) Web サービスで Discovery Accelerator の設定情報やカスタマーデータベースを開示できます。必要に応じて、OData と互換性のあるレポートツールでこの情報を使ってレポートを作成できます。このようなレポートツールには Excel/PowerQuery や SSRS (Microsoft SQL Server Reporting Services) などがあります。

この機能について詳しくは、『[Best Practices for Enhanced Accelerator Reporting](#)』のホワイトペーパーを参照してください。

利用可能な Discovery Accelerator データセット

表 6-13 には、OData Web サービスを使って表示できる Discovery Accelerator データセットが示されています。

表 6-13 利用可能な Discovery Accelerator データセット

データセット	表示内容
CaseHistory	各ケースレビューセットのアイテムに関する情報と、レビューまたは削除のさまざまな段階におけるアイテムの数。
Cases	すべてのカスタマーデータベースにわたるすべてのケースの情報。
Customers	すべてのカスタマーデータベースの情報。
ExportRunDuplicates	エクスポート実行を実施したときに重複排除を有効にしていたため、Discovery Accelerator が見つけた重複アイテムに関する情報。
ItemDetails	指定したカスタマーデータベースと関連付けられていた 1 つまたはすべてのケースにおけるアイテムすべての情報。
LegalHoldArchives	1 つ以上のアーカイブ内のリーガルホールドの詳細情報。
LegalHolds	Enterprise Vault アーカイブから削除されないように Discovery Accelerator が保留状態にしたアイテムの概略。
LegalHoldSearches	ケースに対して行った検索の詳細情報と、検索結果に保持されているアイテムの詳細情報。

データセット	表示内容
ProductionRun	選択したケースの各提出物生成実行のアイテムの情報。
ProductionRunDuplicates	提出物生成実行を実施したときに重複排除を有効にしていたため、Discovery Accelerator が見つけた重複アイテムに関する情報。
Productions	選択したケースに行われた提出物生成実行の情報。
SearchCriteria	特定の検索に使用する検索条件の詳細情報。
SearchDetails	特定の顧客に関する検索の詳細情報。
Searches	指定したケースの、または指定した顧客データベースのすべてのケースの、1 つまたはすべての検索についての情報。
UserRolesAndPermissions	選択したケースにアクセスできるユーザーと、それらのユーザーに関連付けられたルールと権限の情報。

Discovery Accelerator データベースへのアクセス

Web ブラウザのアドレスバーに以下のアドレスをタイプするとデータセットにアクセスできます。いずれの場合も、**server_name** は Discovery Accelerator サーバーソフトウェアをインストールしたサーバーの名前です。

- 利用可能なすべてのデータセットの一覧にアクセスするには、次のようにタイプします。
`http://server_name/DAReporting/OData`
- 各データセットに含まれるすべてのフィールドと利用可能なすべてのデータセットの一覧にアクセスするには、次のようにタイプします。
`http://server_name/DAReporting/OData/$metadata`
- 特定のデータセットにアクセスするには、次のようにタイプします。
`http://server_name/DAReporting/OData/dataset_name`

Microsoft Excel での OData サービスの使用

以下の指示は Microsoft Excel 2010 と 2013 を対象としています。Microsoft Power Query for Excel アドインがインストールされていることを確認してください。このアドインは Microsoft 社の Web サイトの次のページからダウンロードできます。

<https://www.microsoft.com/download/details.aspx?id=39379>

Microsoft Excel で OData サービスを使うには

- 1 Microsoft Excel を開きます。
- 2 新しい空白のワークブックを作成します。
- 3 [Power クエリー] タブで、[外部データを入手] グループの [他のソースから] をクリックして、[OData データフィード] をクリックします。
- 4 [OData フィード] ダイアログボックスページの [URL] ボックスで、次のようにデータフィードの Web サイトアドレスを指定します。

`http://server_name/DAReporting/OData/dataset_name(parameter=value)`

次に例を示します。

`http://da.mycompany.com/DAReporting/OData/CaseHistory(customerID=1005, caseID=5)`

メモ: データセットを表示するために必要な必須パラメータを指定する場合は注意してください。Customers データセットを除いて、すべてのデータセットに必須パラメータがあります。これらについては、各データセットのオンラインヘルプを参照してください。

- 5 資格情報を求められたら、入力してログインします。クエリーエディタが開きます。
- 6 クエリーエディタで、データセットで利用できるレコードを表示します。必要に応じてクエリーを編集します。
- 7 [クローズとロード] をクリックして、Excel のデータセット情報を表形式でインポートします。

Microsoft SQL Server Reporting Services (SSRS) での OData サービスの使用

以下の指示は SSRS (Microsoft SQL Server Reporting Services) を対象としています。

Microsoft SQL Server Reporting Services (SSRS) で OData サービスを使う方法

- 1 レポートビルダを開きます。
- 2 XML 接続タイプとして新規データソースを追加します。

- 3 [接続文字列]ボックスに、次のようにデータフィードの URL を指定します。

http://server_name/DAReporting/OData/dataset_name(parameter=value)?\$format=application/atom+xml

次に例を示します。

http://da.mycompany.com/DAReporting/OData/Cases(customerID=1)
?\$format=application/atom+xml
- 4 資格情報を入力して、データソースに接続します。
- 5 [OK]をクリックします。
- 6 上記のデータソースを使ってデータセットを追加します。
- 7 [レポートに埋め込まれたデータセットを使う]を選択します。
- 8 リストからデータセットを選択します。
- 9 クエリーを次のように設定します。


```
<Query>
  <ElementPath IgnoreNamespaces="true">
    feed{/entry{/content{/properties
  </ElementPath>
</Query>
```
- 10 [フィールドの更新]をクリックします。
- 11 SSRS レポートのレポートデータとして新規データセットを使います。

OData エラーのトラブルシューティング

表 6-14 では、Discovery Accelerator データセットにアクセスしたときに表示されるエラーと該当する HTTP エラー状態コードについて説明します。

表 6-14 エラーメッセージと HTTP コード

HTTP コード	メッセージテキスト	説明
204	このデータセットのコンテンツは利用できません。	アクセスしたいデータセットには情報がありません。 SearchCriteria データセット内で、検索 ID がクエリーで指定されたケース ID に属していない場合、このエラーが発生することがあります。
400	要求の形式が無効です。	OData の URL の形式が正しくない可能性があります。

HTTP コード	メッセージテキスト	説明
401	アクセスが拒否されました。このデータセットを表示する権限がありません。	データセットにアクセスするために必要な権限がありません。
501	データセットの情報を取得するときに例外が起きました。	指定したデータセットの情報を取り込むときに内部エラーが起きました。

Discovery Accelerator 検索で使う Enterprise Vault のプロパティ

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault の検索のプロパティについて](#)
- [システムプロパティ](#)
- [Enterprise Vault のカスタムプロパティ](#)
- [ファイルシステムアーカイブのアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ](#)
- [SharePoint アイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ](#)
- [Compliance Accelerator 処理されたアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ](#)
- [ポリシー管理ソフトウェアで使うためのカスタムプロパティ](#)
- [Enterprise Vault SMTP アーカイブのカスタムプロパティ](#)

Enterprise Vault の検索のプロパティについて

Enterprise Vault がアイテムを処理する場合、情報を持つ多数のアイテムのプロパティをポピュレートし、アーカイブ済みアイテムを含むこの情報を格納します。この情報は Discovery Accelerator の検索でアクセス可能です。検索のプロパティペインの[カスタム属性]セクションでは、自由形式の属性として関連したプロパティの詳細を入力できます。

Enterprise Vault の検索のプロパティは次のカテゴリに分類されます。

- 電子メールメッセージの作成者や添付ファイル数などのシステムプロパティ。
 - メッセージの種類または方向のような Enterprise Vault のカスタムプロパティ。
 - ファイルシステムアーカイブの Enterprise Vault が処理したアイテムのカスタムプロパティ。
 - Microsoft 社 SharePoint の Enterprise Vault が処理したアイテムのカスタムプロパティ。
 - Compliance Accelerator でランダムにサンプリングしたアイテムのカスタムプロパティ。
 - Enterprise Vault Data Classification Services のカスタムプロパティ。
 - Enterprise Vault SMTP アーカイブのカスタムプロパティ。
- すべてのプロパティがすべてのアイテムに存在するわけではありません。

システムプロパティ

表 A-1 に、Enterprise Vault で定義されているシステムプロパティの一覧を示します。

表 A-1 Enterprise Vault のシステムプロパティ

プロパティ	種類	説明
adat	日付	アイテムをアーカイブした日付。
anum	番号	添付ファイル番号。最上位のアイテムに 0 を指定します。
audn	文字列	作成者と、該当する場合はアイテムが送信された際の代表者の表示名。
auea	文字列	作成者と、該当する場合はアイテムが送信された際の代表者の電子メールアドレス。
auot	文字列	作成者の他の電子メールアドレス。
ausm	文字列	作成者の SMTP 電子メールアドレス。wrs、frsm、ppsm のプロパティ値を組み合わせます。
auth	文字列	作成者。

プロパティ	種類	説明
cdat	日付	<p>Veritas Information Classifier エンジンまたはファイル分類インフラストラクチャエンジンがアイテムを分類した日付。アイテムが分類されていない場合は空になります。</p> <p>32 ビットのボリュームを対象にするクエリーではサポートされません。Enterprise Vault 12.1 以前が分類したアイテムには遡及して追加されません。ただし、Enterprise Vault 12.2 以降を使用してアイテムを再分類するとこのプロパティが追加されます。</p>
cend	日付	カレンダーミーティングなどのイベントの終了日。
clcn	文字列	アイテムの現在の場所。フォルダのシーケンス。
clon	文字列	カレンダーミーティングなどのイベントの場所。
cnid	文字列	32 文字の 16 進数で表示される対話追跡 ID。これは MAPI アイテムおよび SMTP アイテムのみに現在ポピュレートされています。
cntp	文字列	対話追跡トピック。これは MAPI アイテムおよび SMTP アイテムのみに現在ポピュレートされています。
coid	文字列	アイテムのこのコンポーネントの元の ID。
comr	文字列	<p>消失した内容の理由。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 0. 利用可能な理由はありません。 ■ 1. 内容は存在しません。 ■ 2. 内容を入手できませんでした。 ■ 3. 内容が壊れています (または壊れているようです)。 ■ 4. 適した形式に内容を変換できません。 ■ 5. 内容の変換に失敗しました (コンバータエラー)。 ■ 6. 内容の変換がタイムアウトになりました。 ■ 7. 内容の変換が必要ですが、データ形式は変換から除外されています。 ■ 8. 内容の変換が必要ですが、変換のバイパスは設定されています。 ■ 9. 内容が暗号化されています。 ■ 10. 内容の変換が必要ですが、コンバータは利用できないか、初期化されていません。 ■ 11. インデックスに内容を追加できません。 ■ 12. コンバータはファイルの種類を認識しませんでした。 ■ 13. 大きいファイルのために変換が除外されました。 ■ 14. 検出できないコードページのために変換が除外されました。

プロパティ	種類	説明
cont	文字列	アイテムの内容 (デフォルトで 128 文字まで)。
cpid	文字列	拡張コンテンツプロバイダインスタンスまたは Enterprise Vault アーカイブタスクの ID。
cpnm	文字列	拡張コンテンツプロバイダの名前。
crcl	文字列	現在の保持カテゴリ名 (32 文字まで)。 分類、保持計画、保持フォルダなど、Enterprise Vault の各種の機能がアイテムに適用している値を反映することがあります。
crct	文字列	現在の保持カテゴリ識別子 (112 文字まで)。 分類、保持計画、保持フォルダなど、Enterprise Vault の各種の機能がアイテムに適用している値を反映することがあります。
crre	整数	カレンダー反復の例外。
crrp	文字列	カレンダー反復パターン。
crrt	整数	カレンダー反復の種類。
csrt	日付	カレンダーミーティングなどのイベントの開始日。
cupm	文字列	切り捨てられたカスタムインデックスプロパティ。
date	日付	作成、送信、受信、またはアーカイブが行われた日付。
dtyp	文字列	アイテムのデータの種類。たとえば、DOCX、XLSX、または MSG。
edat	日付	アイテムの有効期限。 プロパティ値は、アイテムの保持カテゴリを強制変更する保持計画によってアーカイブに適用された値を反映する場合があります。
flag	文字列	メッセージフラグの状態。
fpcn	文字列	アイテムの内容のフィンガープリント。添付ファイルまたは文書の内容に対して一致を検索するために使用できます。
fpdd	文字列	アイテムの重複排除のフィンガープリント。メッセージまたは文書に対して完全一致を検索するために使用できます。このプロパティではワイルドカード検索はサポートされません。
frdn	文字列	差出人: 表示名/フレンドリ名。
frea	文字列	差出人: 電子メールアドレス。frsm と frot のプロパティ値を組み合わせます。

プロパティ	種類	説明
from	文字列	表示名/フレンドリ名、あるいは電子メールアドレス。
frot	文字列	差出人: 他の電子メールアドレス。
frsm	文字列	差出人: SMTP の電子メールアドレス。
idat	日付	Enterprise Vault がアイテムをインデックス付けした日付。インデックスボリュームを再構築すると、Enterprise Vault は影響のあるアイテムのインデックス付けされた日付を更新します。 32ビットのボリュームを対象にするクエリーではサポートされません。
iden	文字列	アイテムの元の ID。たとえば、送信されたメッセージの SubmissionId。
impo	文字列	数値で表されるメッセージの重要度。0 = 低、1 = 標準、2 = 高。
isrc	文字列	Enterprise Vault がアイテムをレコードとしてマーク付けした (True)かしなかった (False)かを示します。レコードを管理するために Capstone やその他の方法で使用します。「isrecord」または「isrc」で参照できます。
jaen	文字列	メッセージのエンベロープ: 他の作成者。
jrau	文字列	メッセージのエンベロープ: 作成者。Exchange ジャーナルメッセージにのみあります。プロパティ値には存在する電子メールアドレスおよび表示名の両方が含まれています。
jrbc	文字列	メッセージのエンベロープ: BCC: 受信者。
jrcc	文字列	メッセージのエンベロープ: CC: 受信者。
jrcp	文字列	メッセージのエンベロープ: 受信者。Exchange ジャーナルメッセージにのみあります。プロパティ値には存在する電子メールアドレスおよび表示名の両方が含まれています。
jren	文字列	メッセージのエンベロープ: 他の受信者。
jrfm	文字列	メッセージのエンベロープ: 差出人: 受信者。
jrpp	文字列	メッセージのエンベロープ: PP: 受信者。
jrto	文字列	メッセージのエンベロープ: TO: 受信者。
keys	文字列	カテゴリまたはキーワード。
locn	文字列	アイテムの元の場所。フォルダのシーケンス。
mdat	日付	アイテムの最終変更日。

プロパティ	種類	説明
msgc	文字列	アイテムの元の MAPI メッセージクラス (たとえば、IPM.Note)。
nadn	文字列	名前。表示名/フレンドリ名。redn と audn のプロパティ値を組み合わせます。
naea	文字列	名前。Exchange の電子メールアドレス。reea と auea のプロパティ値を組み合わせます。
name	文字列	メッセージの作成者または受信者の表示名/フレンドリ名、あるいは電子メールアドレス。
naot	文字列	名前。他の電子メールアドレス。reot と auot のプロパティ値を組み合わせます。
nasm	文字列	名前。SMTP の電子メールアドレス。resm と ausm のプロパティ値を組み合わせます。
natc	番号	添付ファイルの数。
ndte	番号	アイテムの有効期限までの日数。 プロパティ値は、アイテムの保持カテゴリを強制変更する保持計画によってアーカイブに適用された値を反映する場合もあります。
nrcp	番号	受信者の数。 配布リストは、メンバーの数に関係なく、1 人の受信者としてカウントされます。
ppdn	文字列	PP。表示名/フレンドリ名。
ppea	文字列	PP。Exchange の電子メールアドレス。ppsm と ppot のプロパティ値を組み合わせます。
ppgn	文字列	代理としてドキュメントが作成されるまたはメッセージが送信される人物の表示名/フレンドリ名、あるいは電子メールアドレス。
ppot	文字列	PP。他の電子メールアドレス。
ppsm	文字列	PP。SMTP の電子メールアドレス。
prio	文字列	数値で表されるメッセージの優先度。-1 = 低、0 = 標準、および 1 = 高。
pvid	文字列	アイテムの権限 VaultId (112 文字まで)。
rbcc	文字列	BCC: 受信者。
rbdn	文字列	BCC 受信者の表示名。

プロパティ	種類	説明
rbea	文字列	BCC 受信者の電子メールアドレス。
rbot	文字列	BCC: 受信者。他の電子メールアドレス。
rbsm	文字列	BCC: 受信者。SMTP の電子メールアドレス。
rcat	文字列	元の保持カテゴリ識別名 (112 文字まで)。
rcdn	文字列	CC 受信者の表示名。
rcea	文字列	CC 受信者の電子メールアドレス。
rcid	文字列	アイテムのレコード ID です。レコードを管理するために Capstone やその他の方法で使います。「recordid」または「rcid」で参照できます。
rcot	文字列	CC: 受信者。他の電子メールアドレス。
rasm	文字列	CC: 受信者。SMTP の電子メールアドレス。
recc	文字列	CC: 受信者。
recp	文字列	メッセージの受信者の表示名/フレンドリ名、あるいは電子メールアドレス。
redn	文字列	メッセージの受信者。表示名/フレンドリ名。rtdn、rcdn、rbdn、rndn のプロパティ値を組み合わせます。
reea	文字列	メッセージの受信者。電子メールアドレス。rtea、rcea、rbea、mea のプロパティ値を組み合わせます。
reot	文字列	メッセージの受信者。他の電子メールアドレス。rtot、rcot、rbot、rnot のプロパティ値を組み合わせます。
resm	文字列	メッセージの受信者。SMTP の電子メールアドレス。rtsm、rasm、rbsm、rasm のプロパティ値を組み合わせます。
reto	文字列	TO: 受信者。
rndn	文字列	他のエンベロープの受信者。表示名/フレンドリ名。
rnea	文字列	他のエンベロープの受信者。電子メールアドレス。rasm と rnot のプロパティ値を組み合わせます。
rnot	文字列	他のエンベロープの受信者。他の電子メールアドレス。
rasm	文字列	他のエンベロープの受信者。SMTP の電子メールアドレス。

プロパティ	種類	説明
rsdt	日付	保持の開始日付/時刻。 32 ビットのボリュームを対象にするクエリーではサポートされません。
rtdn	文字列	宛先受信者の表示名。
rtea	文字列	宛先受信者の電子メールアドレス。
rtot	文字列	TO: 受信者。他の電子メールアドレス。
rtsm	文字列	TO: 受信者。SMTP の電子メールアドレス。
rtyp	文字列	アイテムの、永続または一時などのレコードタイプ。レコードを管理するために Capstone やその他の方法で使います。 「recordtype」または「rtyp」で参照できます。
sens	文字列	数値で表されるメッセージの機密性。0 = 標準、1 = 個人用、2 = 秘密、および 3 = 機密。
size	番号	KB のアイテムのサイズ。
snum	番号	64 ビットの整数として表現されるインデックスシーケンス番号。
ssid	文字列	アイテムの保存セット識別子。最大 72 文字。このプロパティではワイルドカード検索はサポートされません。
subj	文字列	件名またはタイトル。
tcdt	日付	タスクの完了日。
tddt	日付	タスクの期限。
text	文字列	アイテムの内容 (cont) または件名またはタイトル (subj)。
tsts	番号	タスクの状態。0 = 未開始、1 = 進行中、2 = 完了、3 = 一時停止、4 = 遅延。
vpcv	文字列	Veritas Information Classifier ポリシーの現在のバージョン。 Veritas Information Classifier がアイテムを分類したかどうか。 分類している場合、最新のポリシーセットを使用したかどうか。 True = 最新のポリシーセットを使用して分類した。False = 最新のポリシーセットを使用して分類した。空 = Veritas Information Classifier がアイテムを分類していない。
wrdn	文字列	最終更新者。表示名/フレンドリ名。
wrea	文字列	最終更新者。電子メールアドレス。wrsn と wrot のプロパティ値を組み合わせます。

プロパティ	種類	説明
writ	文字列	最終更新者。wrdn、wrea、wrsm、wrot のプロパティ値を組み合わせます。
wrot	文字列	最終更新者。他の電子メールアドレス。
wrsm	文字列	最終更新者。SMTP の電子メールアドレス。

Enterprise Vault のカスタムプロパティ

表 A-2 は Enterprise Vault で定義されているカスタムプロパティをリストします。

表 A-2 Enterprise Vault のカスタムプロパティ

プロパティ	種類	説明
Vault.CopiedFrom	文字列	<p>Enterprise Vault のアーカイブの移動機能がコピーしたアイテムの次の詳細を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ アイテムをコピーした日時。 ■ アーカイブ元の識別子。 ■ ソースアイテムの保存セット識別子。 <p>次の形式があります。</p> <p><i>UTC_datetime_of_copy、source_archive_ID、source_item_Saveset_ID</i></p> <p>アーカイブが数回移動された場合、各移動に値があります。</p>
Vault.JournalType	文字列	<p>ジャーナルメッセージ用のジャーナルの種類。オプションは次のとおりです：</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ E2003 ■ E2007 ■ E2007ClearText ■ E2007RMS
Vault.MsgDirection	文字列	<p>メッセージの方向。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 0 - 未定義 ■ 1 - 内部（送信者とすべての受信者が内部） ■ 2 - 外部インバウンド（送信者が外部で、1 人以上の受信者が内部） ■ 3 - 外部アウトバウンド（送信者が外部で、1 人以上の受信者が外部）

プロパティ	種類	説明
Vault.MsgType	文字列	メッセージの種類。オプションは次のとおりです: <ul style="list-style-type: none"> ■ Bloomberg ■ DXL ■ EXCH ■ FAX.vendor ■ IM.vendor ■ SMTP

ファイルシステムアーカイブのアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ

表 A-3 はファイルシステムアーカイブのアイテムの Enterprise Vault で定義されているカスタムプロパティをリストします。

表 A-3 ファイルシステムアーカイブのアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ

プロパティ	種類	説明
EVFSADLMImport.DLM	文字列	アイテムがレガシーのアーカイブアプリケーション、Veritas データライフサイクル管理 (DLM) からインポートされたインジケータ。これは現在文字列「インポート済み」とポピュレートされていません。
EVFSA.OriginalFileName	文字列	Enterprise Vault がアーカイブしたポイントのファイルのオリジナル名称。

SharePoint アイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ

表 A-4 は SharePoint のアイテムの Enterprise Vault で定義されているカスタムプロパティをリストします。

これらのプロパティの中には、特定の Enterprise Vault システムプロパティと同様なものがあります。たとえば、SharePoint プロパティ "EVSP.Title" は Enterprise Vault システムプロパティ "subj" と似ています。ただし、Enterprise Vault システムプロパティは、ソーシャルコンテンツアイテムなど、一部の SharePoint アイテムで予測される情報を保持しません。このため、SharePoint アーカイブを検索する場合は、同等の Enterprise Vault

システムプロパティでなく、カスタムの SharePoint インデックスプロパティを使ってください。

表 A-4 **SharePoint アイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ**

プロパティ	種類	説明
EVSP.AttachmentName	文字列	このアイテムに対するすべての添付ファイルの名前の一覧。このプロパティは、Wiki を除くソーシャルコンテンツのみに適用されます。
EVSP.Comment	文字列	チェックインのコメント。
EVSP.Created	文字列	アイテムの作成日。このプロパティはソーシャルコンテンツにのみ適用されます。
EVSP.CreatedBy	文字列	文書の作成者のドメイン名 (Windows アカウント名)。
EVSP.DocId	文字列	SharePoint 文書の識別子。
EVSP.Editor	文字列	文書エディタの表示名。
EVSP.Modified	文字列	アイテムが最後に更新された日付。このプロパティはソーシャルコンテンツにのみ適用されます。
EVSP.ModifiedBy	文字列	文書エディタのドメイン名 (Windows アカウント名)。
EVSP.ProgId	文字列	アイテムのプログラム ID。
EVSP.Site	文字列	SharePoint のサイトの名前。
EVSP.SiteId	文字列	SharePoint のサイトの識別子。
EVSP.SiteUrl	文字列	SharePoint のサイトの URL。
EVSP.Title	文字列	SharePoint 文書のタイトル。
EVSP.UniqueId	文字列	アイテムを一意に識別する GUID。
EVSP.Version	文字列	SharePoint 文書のバージョン。
EVSP.Attachments	文字列	アイテムに添付ファイルがあるかどうか (true または false)。このプロパティは、Wiki を除くソーシャルコンテンツのみに適用されます。
EVSP.display_name	文字列	アーカイブ済みアイテムの表示名。

プロパティ	種類	説明
EVSP.SharePoint_property_name	文字列	カスタマーが設定可能なプロパティ。任意の SharePoint のプロパティ。

Compliance Accelerator 処理されたアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ

表 A-5 は Compliance Accelerator でランダムにサンプリングしたアイテムの Enterprise Vault で定義されているカスタムプロパティをリストします。

表 A-5 Compliance Accelerator 処理されたアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ

プロパティ	種類	説明
KVSCA.Department	文字列	KVSCA.DeptAuthor と KVSCA.DeptRecips のプロパティ値を組み合わせます。
KVSCA.DeptAuthor	文字列	アイテムの作成者がメンバーの Compliance Accelerator 部門 ID のセット。
KVSCA.DeptRecips	文字列	アイテムの受信者がメンバーの Compliance Accelerator 部門 ID のセット。
Vault.PolicyAction	文字列	アイテムで取る必要がある全体処理。適用されるポリシーすべての合計の結果。次の定義値があります： <ul style="list-style-type: none"> ■ NOACTION ■ EXCLUDE ■ INCLUDE

ポリシー管理ソフトウェアで使うためのカスタムプロパティ

表 A-6 に、Enterprise Vault Data Classification Services などの特定のポリシー管理アプリケーションで使われることがあるカスタムプロパティの一覧を示します。

(Data Classification Services は、Veritas Enterprise Vault と Symantec Data Loss Prevention のさまざまなコンポーネントを組み合わせた、旧式のアドオン分類技術です。ここで説明する分類機能とは異なります。)

表 A-6 ポリシー管理ソフトウェアで使うためのカスタムプロパティ

プロパティ	種類	説明
evtag.category	文字列	いずれの方向のキャプチャにも影響しないポリシーです。アイテムの分類のみを行います。
evtag.exclusion	文字列	レビューセット内でキャプチャを除外するか、キャプチャしないことを推進するポリシーです。
evtag.inclusion	文字列	キャプチャを要求または提案するポリシーです。

Enterprise Vault SMTP アーカイブのカスタムプロパティ

表 A-7 は、他社のアプリケーションで SMTP メッセージに追加し、Enterprise Vault SMTP アーカイブでポリシーと対象設定を上書きできるカスタムプロパティをリストします。これらのプロパティについて詳しくは、『SMTP アーカイブの設定』を参照してください。

表 A-7 Enterprise Vault SMTP アーカイブのカスタムプロパティ

プロパティ	種類	説明
EVXHDR.X-Kvs-ArchiveId	文字列	メッセージを保存するアーカイブの識別子。
EVXHDR.X-Kvs-IndexData	文字列	インデックス付けする Enterprise Vault の 1 つ以上のプロパティ。
EVXHDR.X-Kvs-MessageType	文字列	メッセージの種類。これにより、Enterprise Vault SMTP アーカイブがデフォルトで SMTP.mail に設定する Vault.MsgType プロパティの値が上書きされます。
EVXHDR.X-Kvs-OriginalLocation	文字列	メッセージが存在するコンテンツソースのフォルダ。
EVXHDR.X-Kvs-RetentionCategory	文字列	メッセージに割り当てる保持カテゴリの ID。